

第 1 5 回産業建設常任委員会会議録

1 開会日時 平成27年12月10日（木）午前10時0分

2 閉会日時 平成27年12月10日（木）午後2時3分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

3 番	澤 健君	4 番	保田 守君	6 番	治徳 義明君
8 番	行本 恭庸君	1 2 番	佐藤 武文君	1 7 番	金谷 文則君

5 欠席委員

な し

6 説明のために出席した者

市 長	友實 武則君	副 市 長	内田 慶史君
産業振興部長	奥田 吉男君	産業振興部政策監	中村 昌孝君
建設事業部長	水原 昌彦君	建設事業部参与兼 上下水道課長	岩本 良彦君
赤坂支所長	正好 尚昭君	熊山支所長	田中 富夫君
吉井支所長	荒島 正弘君	商工観光課長	矢部 恭英君
農林課長	若林 毅君	建設課長	中川 裕敏君
都市計画課長	塩見 誠君	赤坂支所 産業建設課長	歳森 信明君
熊山支所 産業建設課長	是松 誠君	吉井支所 産業建設課長	有馬 唯常君

7 事務局職員出席者

議会事務局長	富山 義昭君	主 事	藤井 千恵君
--------	--------	-----	--------

8 審査又は調査事件について

- 1) 議第70号 字の区域の廃止について
- 2) 議第71号 平成27年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）
- 3) 議第75号 平成27年度赤磐市簡易水道特別会計補正予算（第1号）
- 4) 議第76号 平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 5) その他

9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（治徳義明君） 皆様、おはようございます。

ただいまから第15回産業建設常任委員会を開会いたします。

開会に先立ち、友實市長より挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 産業建設常任委員会の皆様、おはようございます。

本日は、年末のお忙しいときにこの常任委員会を開催いただきましてまことにありがとうございます。

本日の議題でございますけれども、議案に上程させていただいている諸議案、そしてその他といたしまして各種の事業の進捗状況を御報告させていただきたいと思っております。何とぞ慎重なる御審議の上、適切な御決定をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いをいたします。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

それでは、これから委員会の審査に入ります。

当委員会に付託された案件は、議第70号字の区域の廃止についてから議第76号平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）までの4件であります。

それでは、まず議第70号字の区域の廃止についてを議題として、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いいたします。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業部、水原。

○委員長（治徳義明君） 水原建設部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 議第70号字の区域の廃止につきまして補足説明のほうをさせていただきます。担当課長のほうから申し上げますので、よろしくお願いいたします。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長、建設課長中川です。

○委員長（治徳義明君） 中川建設課長。

○建設課長（中川裕敏君） それでは、議第70号字の区域の廃止について説明します。

建設事業部資料の1ページをお願いします。

土地改良法により日古木地区の土地改良事業の換地処分の公告があった日の翌日から字の区域及び名称を廃止したいので、議会の議決を求めるものです。

平成23年度から行っておりました日古木地区のほ場整備ですが、平成26年度に確定測量が完了し、この12月19日に権利者会議を行う予定です。それにより換地処分の公告を来年3月中ごろに行う予定で現在業務を進めます。これによりまして、1番字池尻から9番字東相之丁までの9つの字について、ほ場整備の区域内について廃止をする予定にしております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

執行部の説明が終わりました。

これから質疑を受けたいと思います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようですので、これで質疑を終了いたします。

続いて、議第71号平成27年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）を議題として、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いいたします。

なお、説明は補正予算書及び説明資料のページ番号を言うてから行うようにお願いいたします。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業部、水原。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 議第71号平成27年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）につきまして、補足説明のほうを担当課長のほうからさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） それでは、まず補正予算書11ページ及び説明書の2ページをお願いいたします。

歳入につきまして、20款雑収入、5項雑入、4目雑入、1節雑入として日古木地区ほ場整備事業の換地に伴う換地清算金を855万6,000円です。この事業につきましては、市が事業主体として行った事業ですので土地改良法により市が権利者から清算金を徴収いたしますので、ここで雑入として上げております。

続きまして、補正予算書の16ページ及び説明書の10ページのほうをお願いいたします。

歳出につきましてですが、6款農林水産業費、1項農業費、5目農地費、22節補償、補填及び賠償金としてほ場整備の換地清算金を863万5,000円です。内訳としまして、奥吉原地区が3万5,000円、日古木地区が860万円です。奥吉原地区につきましては、事業主体が岡山県でございますので、道路、水路を新しくつくった創設換地分の清算金を岡山県のほうへ市のほうから支払いを行います。その後、岡山県のほうが他の権利者から徴収したものを合わせて、支払いのほうを行うようになっております。日古木地区の860万円の内訳につきましては、先ほど歳入で計上しました855万6,000円と市の負担となる新しくつくられた道路、水路分の清算金4万4,000円を合計したものでございます。これを市のほうで権利者のほうに支払いのほうを行います。

続きまして、補正予算書の17ページと同じく先ほどの説明書の10ページのほうの、8款土木

費、3項河川費、1目河川総務費、11節需用費として大型草刈機の修繕料が74万5,000円です。これにつきましては、熊山支所で主に使用しております大型草刈機のナイフ軸の修理と走行用キャタピラの取りかえを行うものです。

建設事業部資料の2ページのほうをお願いいたします。

ここに写真を数枚載せております。その一番上の写真が大型草刈機の使用状況でございます。①、②が草刈りを行う部分を少し上に上げた状況の写真で、草刈りを行うときにはこれを地面のほうに近づけ、数十本ぶら下がっておりますYの字を逆さまにしたものがあると思いますが、これがナイフ部分で、これにつながったナイフ軸が回転することによりナイフが草をたたいて刈るようなことになっております。このナイフ軸のほうは、危険な状態、少し痛んでおりますので修理のほうを行いたいと思っております。④のほうにそのナイフをピンで取りつける部分のブラケット部分に変形した状況が写真として出ております。今回、このような箇所を2カ所修繕します。その修理費としまして約38万円と痛んだキャタピラの取りかえに約36万5,000円、合わせて74万5,000円でございます。続きまして、同じく12節の役務費としまして、県の行います河川の堆積土のしゅんせつにより発生した流竹木の処分費の手数料を200万円計上しております。建設事業部資料の3ページのほうをお願いいたします。このふるさとの川リフレッシュ事業という事業で行うしゅんせつですが、このイメージ図にあります通りに従来からの河川改修では多大な事業費が必要になり長期間かかるということから緊急的な取り組みということで河川管理者の県がしゅんせつや竹木の伐採を行い、河道の拡幅を行うものです。県の実施箇所の選定に当たり、実施要項においては緊急性のある箇所、比較的規模の大きな箇所、実施に当たり市町村等との共同の取り組みがある箇所となっており、今年度は砂川、滝山川を県でしゅんせつを行う予定ですので、市の共同の取り組みとして残土処分場の確保及び伐木材の処理を共同で行うもので、伐木材の処理費をここで計上しております。

以上、補正予算の説明でございます。

○委員長（治徳義明君） 執行部の説明が終わりました。

これから質疑を受けたいと思います。

質疑はありませんか。

○委員（佐藤武文君） 農林費のほうは。

○委員長（治徳義明君） なしですね。

○委員（佐藤武文君） ああそう。委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 農業総務費の関係で、人件費の関係1,462万円。他の項目では減額補正が行われておるわけではありますけど、この農業総務費の関係については1,462万円の増ということになっております。この関係で、説明資料によりますと21名の職員が24名、要するに3名の増になったということなんです。この関係について、当初予算の計上のときにこのよう

なことについての説明がなかったと思うんです。要するに3名職員を増員をしておられるということについては、何か新しい事業、何か新しいことをやるための人件費の増ではないかというふうに思われます。また、この人件費の金額を見てみても新人の職員ではなしと、中堅的な職員の方がここに当たられておるというふうに推測はできます。そういうようなことの中で、詳細についての説明をしていただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○農林課長（若林 毅君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 当初21名の職員が24名に増員になったという内容でございますが、21名は当初予算を計上するときの見込みでございました。その後、職員が3名農林課関係でふえております。1名については政策監が来られたということ、それから東備農業共済組合へ派遣しております職員のほうを以前は総務費のほうで組んでおりましたが、今回は農業総務費のほうで組んだこと、それから1名任期付職員のほうを採用しております。その3名が今回ふえたということでございます。その関係で補正のほうが2,871万3,000円というものでございます。金額については、役職によって金額のほうはまちまちでございます。そういった異動もありまして、最終的な補正額となっております。

○委員長（治徳義明君） 済んません。21というのは、24でええん。23、どっちですか。

○農林課長（若林 毅君） ごめんなさい。21が24です。3名。失礼しました。

○委員長（治徳義明君） 了解しました。佐藤委員、よろしいか。

○委員（佐藤武文君） はい、よろしいです。

次に、委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） わかりました。ありがとうございました。

それから、河川総務費の関係で、先ほど説明があった修繕費の関係で74万5,000円、内容的には写真を見せていただいて、随分これ古い機械のように思います。今回の74万5,000円の修繕をされるに当たって、この機械の定価は幾らするんでしょうか。何ぼの定価で、今回74万5,000円修繕費がかかるんですか。要するに、74万5,000円をかけて修繕をするよりはさらを買うほうが安いのではないかということを私は言いたいんです。要するに、この74万5,000円、多額な費用をかけて修繕をするよりはさらを買うほうがいいのではないかなというふうに私は思うんですけど、その辺のことをちょっと補足して説明してください。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 定価というのが今手元ですぐはわかりませんが、導入時、平成19年にこの機械については導入しておりますが、約350万円足らずの金額で購入をして導入を

しております。ということで、今後も修繕をしていきながら使用していくのがよろしいかと思
ってここで計上させてもらっております。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員、よろしいか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） はいはい、ありがとうございます。

この機械の耐用年数というのは何年が耐用年数になっておるのでしょうか。その修繕をしな
がら、しながら使うということに対しては、生命の危険性も考えられるようなこともあるの
で、耐用年数というのは何年を思っておられるのかを答弁願います。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 耐用年数という形で具体的な数字はございませんが、税金等での
減価償却については7年ということで農業用のこのような機械ということで出ております。し
かし、現在毎年使用前に安全点検等も行いながらの使用ということで安全性についても確保の
ほうをしながら使用のほうはしていきたいと思っております。

○委員（佐藤武文君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） ありがとうございます。

今後の整備計画について、耐用年数の過ぎておるようなそういうふうな機械を使っておられ
るというようなことの中で、今後の整備計画についてあれば答弁をいただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 現在、この大型草刈機についてさらにすぐに購入するという計画
は今のところございません。ほかの草刈機等については、検討のほうはさせてもらう必要もあ
るかはしませんが、この大型草刈機についてはこのまま定期点検をしながら使用のほうをし
ていきたいと思っております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、そういうことじゃ困るんじゃないですか。要するに、耐用
年数を私が聞いたら今7年ということ耐用年数を答えられたんです。耐用年数を過ぎたもの
を使うということについては、要するに人命にそういうふうな被害が出るおそれがあるんじ
ゃないかなということも聞いたんです。だから、今後の整備計画についてお聞きしたところ、そ
れ、ないということは、要するに車でも耐用年数が来たら車は新しく買いかえられる計画はあ
るわけなんです。そういうふうなことで、これなくてはならない機械なんです、この草刈機と
いうのは。要するに、先般の質疑の中にも出ておりましたように、これから導入されておられ
るのが、熊山地域と吉井地域と。要するに、どちらも機械が古いということを質疑の中でも出

ておりました。それを、その今いう整備計画を今後全然ないんだということを言われたら、これ人命の危険に関する問題も出てくるわけなので、当委員会としては、そういうふうなことを言われたら、ああそうですかというわけには私はこれいけないと思うんです。

要するに、整備計画をきちっと立てられた中で、今後整備していくということを答えていただかなければ、そういうふうにならないだと言われたら、委員会としても私は立場上困ると思うんです。そのことについては、再度答弁いただきたい。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 済いません、先ほどの7年という、まず年数でございますが、減価償却資産を計算するときにあらわされている年数を上げさせていただきました。よって、この7年がすぐ危険性が出るものとは考えておりませんので、現状点検等は毎年行い安全性は確保していくと、その中で今後整備計画のほうを立てていくようなことも考えていきたいと思っております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、要するにそれは何を基本において考えておられるかということなんです。これ安全・安心、安心はちょっと当たらないかもしれませんが、安全性というのをやはり重視して作業していただかなければ、作業される方にそういうふうな危害が加わるような、そういうふうな機械を使ってそういうふうな作業をしていただくというのは、私は行政としての正しいやり方とは思えないんです。だから、要するに耐用年数というものを勘案した中で、使えるだけ使うんだという考え方は私はちょっとその今やり方として正しいやり方とは思えないんです。要するに、耐用年数をきちっと立てられた中で、そこで要するにその耐用年数が1年、2年延びるのはそれはいたし方ないかもしれませんが、永久的に使うんだという考え方は私はちょっと違うんでないかと思うんです。その辺が、人命にかかわるような問題も出てくるんで、私はああいいですよというわけにはこれいけないと思うんです。その辺、わかっていただけますかね。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） この大型草刈機につきましては、作業が終わります10月以降に次年度に向けての定期点検のほうを行っております。この中で、悪い部品がありましたら交換して安全なものとして来年度使えるような格好での整備を継続してやっております。途中、作業中でも修繕等が必要であれば、当然そりゃしていくことになりますが、そういった年の作業終了後に点検のほうを行って、来年度に向けて整備していくという体制を整えておりますの

で、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） ようねえけど、もうええかな。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 済いません。佐藤委員の御質問は、こういう機械に対してどういう基本的な考えのもとに買いかえなり、赤磐市は考えているのかという御質問に受けとめました。

この草刈機に限らないんですけども、これに対してはまず老朽化あるいは型式が古くなって安全基準を満たしていないとか、著しく危険が予想されるとき、あるいは故障によって部品の供給がなくなる、古い機械のために部品がないという状況、それからこの運転性能が老朽化によって著しく劣化している、または修理頻度が高くなって修理して使うことは著しく不経済になる、そういったこととこれまで使ってきた年数、こういったものを総合的に勘案してこういった機械は買いかえ、新品に交換するなどを考えていくということが、この草刈機に限らず赤磐市の公用車等にも同じような適用で考えていきたい、これが基本的な考え方でございます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑ございませんか。

保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） この写真を見たら、歯が随分、多くの歯がついとんですけど、この歯の取りかえを、この金額74万5,000円という割と高額なんですけど、この歯を全部取りかえるということになるんですか。部分的に写しとる部分がここのボルトとの接点のところが1カ所いっとるからそこだけを取りかえるとかということなんでしょうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 今回の修繕につきましては、④の写真に書いてます、このボルトをとめている回転軸となるものに、出っ張った部分の少し損傷している部分が見えると思います。その部分の修繕をするもので、歯自体を、草刈りをするためのハンマーといわれる歯自体の交換の費用ではございませんので。歯につきましては、それ以外のときに、例えばちびている部分が多いところを少ない部分と取りかえるなどして使っていく中で、全てがそういう切れ味の悪くなるへたった状態で取りかえをするというようなことをしております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） はい、保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 74万5,000円、高額な修理代なんですけど、ここの1カ所だけをかえるにこんなにかかるんですか。ちょっと明細がわからんので説明していただきたいと。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 今回の74万5,000円でございますが、まずこの今写真に載ってますナイフ軸の修理について約38万円でございます。その金額につきまして、この修理につきましてはこの部分が一番、このナイフ軸の回転する部分の一番端になるということで地元の業者では修理が難しいと、できないということでメーカーで行う必要がございますので、静岡県のほうへ、メーカー側へ送りまして修理のほうをいたします。その辺の費用等も全て合わせて38万円を上げさせてもらっております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） それから、この間質疑の中で、これを使ったら転んで滑って落ちたとか、それで転んで機械がめげたとか、いろいろ言われたんですけど、この地区、地区が順番にローテーションして使うんですけども、この、ある、聞きようったら議員さんが運転しようって転んで落ちたとかというふうなことを聞いたんですけど、誰でもぽっと出て、安全講習とかなんとかというものを、これは非常に危険な道具だと思うんです。その地区で使用する方なんかが一週安全講習とか、そういうものを聞いてもらうとか、それを受けた人でないと使用したらいけんとかという、きっちりしたことを決めとかんといけんのじゃないかなと思うんです。私らの建設現場での小さなユンボでも安全講習を受けて免許持ってます。だから、こんだけ危険なもんだったらきちっとしたルールをつくらにやおえないと思うんですけども、この辺はどのように考えられていますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○吉井支所産業建設課長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、有馬課長。

○吉井支所産業建設課長（有馬唯常君） ただいま御指摘のいただきました安全運転に向けての講習というお話でございますけども、導入して10年ほど経過しております。導入当時におきましては各地区で利用される方を対象に講習を行っております。また、新たに御利用をなされるという場合がありますら平場のほうで操作説明のほうを市の職員が行って運転をいただいております。斜面での利用ということで非常に危険を伴います。こうした大型機械を効率的に活用すれば肩かけでの草刈機の労力が省けるといところから、結構斜面のところでも御利用いただくような状況を見受けますけども、安全面の観点から極力平場での使用をお願いしてあるような状況であります。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 最初にしとった部分がちょっと経過して、扱い方も少しなれてきたらそばへおる講習とかを受けてない人がかわったりしてやったり、それから議員さん、一生懸命やりよったという人の話を聞いたら3回ぐらい転んで落としたことがあるとかということを知ったので、そこら辺はちょっと・・・・・・・・・・かもしれないけど、やる気があって議員さんが講習も何も知らなくても、わしがやったんだと言うていって、はいどうぞというような状態になっとなじらないかと思うんで。これ転んで下敷きにでもなったら大変なことになったり、それから前方へいったら石がとんでもない飛んでくる、その石の飛散防止のためにここの鎖系の物がついて前へ石が飛ばないようにしとるというようなことを聞きました。ぜひ安全について、この使用についちゃもう一遍きちとして、皆さんに徹底するようにしてもらいたいと思うんですけども、この辺どうでしょうか。

○委員長（治徳義明君） はい、水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） こちらの大型草刈機導入時には安全講習等もやって使用していただいたようでございます。しかし、年がたってそういった講習も受けてない方も実際に使われとる可能性もありますので、今後定期的に講習会、使用の使い方等につきまして実施するような格好で検討してまいりたいと思います。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○副委員長（保田 守君） はい、よろしいです。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑ございませんか。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） 人事異動の関係と今の草刈機の関係のことをお尋ねしますが、まず人事異動の関係で農業費のほうで組んだる21人が24人になったということで3人の説明を受けたんですが、その3人、受けて、事業量的にふえたからこういうふうになつたのが原因なのか、特に監理官の立場なんかに言やあ、別の考え方とどこにつながってくると思うんですが、あとの2名の方なんかの仕事量がふえたからふやしたという意味なんか、そこら辺の説明をお願いしたいと思います。

それから、その下の土木総務費の中の、これ当初予算で組んどんですけど22人が今度21人に1人減ったということについての理由が何であろう。仕事量が減ったから人員を減したのか、それともやむなく全体的に減っていきよう中のあおりを食うてここが1名減になったのか、そこら辺の説明。

それとへえからこの補正予算を、ここに上がってくること自体の説明がわかれば。私が思うのは、当然27年なら7年の予算を26年度の末に組んで議会も議決をしてするわけですけど、せえから人事異動は皆4月1日以降にするもんですから当然ずれが生じてくるからこういうことが発生すると思うんですが、この人事異動で発生したならば議会とすれば6月の議会、9月の議会、へえで例年ずっと12月で今しとるようには思うんですが、なぜこの12月でなければなら

ないのか、そういう理由を説明願いたい。何でしたら、今までずっとほっとくんじゃったら3月の補正で一遍にしてもええはずなんで、ただそれはふえたときに、金が足らんなるとこもできてくるから云々という問題もあるでしょうけど、それはもう相殺をどっかでしていかんやいけん話ですけど、基本的にやるのはもうちょっと6月でするべきじゃないかなと私は思うんですが、その辺の説明を。

それから、草刈機の関係ですけど、一番にぱっと見てこの写真がまずまずいなど。これは、直営でやっとなるわけで、シルバーさんで恐らくやっとなじやと思うんですが、夏場ですから暑いから麦わら帽子をかぶっとなでしようけど、これはえろう好ましゅうない写真じゃなと。なるべくよう気をつけて。

へえで、いろいろ機械の件については、耐用年数とか修理のほうとかいろいろ説明があったんですが、内部のほうをかえるのを38万円がかかるというのは、これも静岡まで持っていく輸送費やそういうもんも入っとなるものでしょうから、槌より柄が重たい仕事じゃないかなと思うんですが、それはそれでやむを得んことですからよろしいが、私が一番問題提起をしたいのはこの刈っとなる場所はどこなのか。吉井にしても熊山と2台あるようですから、2カ所についてどういう場所をこの機械をもってやっとなか、そして吉井と熊山と面積的なもんも違うかもしれないですけど、この機械を導入するということについては、やっぱり面積的に広い分であると思うんですが、年間大体どのくらいの草刈り、延べですね、例えば面積、年に2回あるいは同じところを刈れば2倍の面積でなるわけですけど、延面積で結構ですから大体どのくらいのものを刈っとなか。これは、お金をお支払いのどこからでも開きやはじきやできるんかもしれませんが、その問題と、ほれから場所ですね、どういうところを刈っとなれるんかそれを説明願いたいと思います。

それと、都市計画費の中で予算の内容ですが、当初地方債で組んどったものを一般財源へ振りかえとりますわな。この理由はどういうことで、地方債で予定しとったものが一般財源で賄えるようになったんか。その点もあわせてお願いします。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） まず農林費のほうでの人件費の内容について御説明をいたします。

今回の3名の増ということで、担当課長のほうから御説明しまして、農水出向者については1名の増ということで中村政策監、それから任期付きの松嶋さんが今回4月から増員となっております。中村政策監につきましては、国の地方創生のシティーマネジャーとして自治体に創生総合戦略の具体化に向けての支援という形で来ていただいております。実際にかかわっていただいております業務については新たな事業として取り組んでいただいておりますものもございます。

し、商工観光、課をまたがった業務についてもいろんな御支援それから国とのパイプ役、そういった形で新たな事業導入を行っております。今、行っておりますものは総合計画、総合戦略に基づく農業の振興についての方向をつくるという形で取り組みをしていただいております、任期つきの方につきましても中村政策監と一緒に取り組んでいただいておりますのが現状でございます。

この時期の人件費補正ということでございますが、例年であれば人事院勧告の異動をかけてここであわせて12月にするというのが恒例になっておりますが、今回については人事異動のみの人件費の補正というふうに伺っております。

以上です。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 土木総務費1人減になった理由ということでございますが、22名、当初予算を組んだときに編成人員は22ということでございます。人事配置によりまして21になったということでございまして、人事による減が1名ということでございます。

それから、人件費の補正につきましては、先ほど奥田部長が申し上げたとおりでございます。

それから、大型草刈機の刈っておる場所についての御質問でございます。

まず、熊山地域につきましては沢原、松木、栄町、小瀬木、徳富の5地区、それから吉井地域につきましては草生、周匝、中村、福田、稲蒔の5地区ということでございます。

それから、刈払面積につきましてはちょっと把握ができてないんですが……。

○建設課長（中川裕敏君） いいですか。

○建設事業部長（水原昌彦君） 刈払面積につきましては、情報は中川課長のほうが申し上げます。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 先ほどのあれでは延面積ということでございましたが、地区によりまして、一応委託としては2回お願いしておりますが……。

○委員（行本恭庸君） 全体量言うて、全体。

○建設課長（中川裕敏君） 全体としまして、熊山が9.1ヘクかける草刈り回数で、吉井地区につきましては13.4ヘクというのが面積です。それ以外に、例えば熊山地区ですと花火のときの水辺の楽校であるとか、そういう草刈りについても利用のほうをさせていただいております。

それと、写真での御指摘もありました安全対策ですが、先ほどの講習のときに、そのようなことにつきましても内容に盛り込んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いま

す。

○都市計画課長（塩見 誠君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 塩見課長。

○都市計画課長（塩見 誠君） 先ほど御質問ございました8款土木費、4項都市計画費、1目都市計画総務費の関係で、財源更正のほうを行っております。これにつきましては、当初は起債を活用するということで当初予算は編成をいたしておりましたが、26年度、今年度決算を行いまして、26年度決算後に財政調整基金のほうに約5億7,000万円ほど基金のほうを積み立てをしております。将来の財政状況を検討した中で、今回起債ではなく一般財源のほうを充当してこの事業をするという形にさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（行本恭庸君） それで答弁終わりですか。

○委員長（治徳義明君） はい。あの、行本委員、発言されますか。

○委員（行本恭庸君） はい、行本です。

○委員長（治徳義明君） はい。

○委員（行本恭庸君） 土木総務費のほうの関係で21人、22人になっとなって、現場的にはこれは支障はないんですか。一番私が心配しとるのはその面なんです。要は、仕事量がふえたから人員をふやしたというのが基本的な考え方じゃろうし、へえから減したということは事業量が少のうなったから減したんじゃないかというふうな見方もできるんで、そこらの点で実際はそうであってほしいと思うんですが、原則は。しかしそうでなしに、やはり年々、今何人が定数か私も一遍聞いてはみようと思っておりますけど、なかなかよう答弁もできんと思うんですが、現状の職員数の中で決められたうちの規模の町のものが、かっちりとした人数じゃと、わしは各市なら市においての市町村において独立性があるから、やっぱりはっきりとした人数というのはなかなかつかみにくいところがあると思うんですけど、それはまた後で結構ですけど、この答えには関係ないんですけど、よろしいですけど。いわゆる人事異動をずっとして減してきとるから、そのしわ寄せでなっとなんじゃないかなという心配を私は一番しとんで、それで減ったことについて仕事量に影響がないのであればよろしいが、その点はどんなんですか。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設部長、水原です。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 現在土木の関係で配置された職員につきましては、与えられた職務を一生懸命やっております。人数が適正かどうかというのはなかなか難しい部分もございしますが、与えられたものは一生懸命やるということで、頑張っております。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） そりゃあ部長にしても課長にしてもそういう答弁しかできんのはわかるんですけど、しかしながら例えば建設部門で中川課長周りなんかというのは土曜日でも日曜日でも灯をつけて仕事をしとるのをしょっちゅう見ます。ということは、やっぱり時間的なものは残業をかなりやっとなじまないかというところに結びつくと思うんです。ただ時期的なものでというのもあるでしょうけど、しかし全体的に考えればやっぱりそこまで休みもない、とれんほど残業もせにやならんということはやっぱり人員が少ないからそういうところへつながると私は思うんで、それがもう少し、これは部長、課長に聞いてもいいけんのんで、市長に聞きますけど、もう少し実際の人員が、こりゃ産建だけの委員会じゃない、全体として物事を考えるのに、各場所場所において実際どれだけの人員が配置せにやならんのんか、そこらの話が十分、例えば人事異動のときなんかでも話をして決めていっとんですか。

私が思うのは、2階の部長族が采配を振るうて仕方なしに、ほかのとは1階や3階はしとると思うんじゃけど。もう少し全体的にものを考えてやらんと。特に人員を減したりとかというような問題で、今回の水道の問題に直接つながるとは思いませんけど、しかし何らかそういう関係はあると、出てくるんじゃないかという気もしますんで。なかなか人事異動で適材適所という言葉は使っても、本当になかなかそれが一番難しい問題じゃと思うんです。そういう中で、なかなか適材適所へやればやっぱり異動の範囲が狭まってくる、それが災いをするというようなこともあって、3年かほどたてば異動やっとなが現実じゃと思うんじゃけど、それでもって実際仕事がスムーズにいっとるケースもあれば、その逆も十分あると私は思うんです。そういう面を考えて、実際ほんなら何人が必要なんか、そこらの調整がとれていっとんか、その辺をちょっと答弁していただきたいんですが。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 職員の職員数に関するお尋ねです。特に土木等の建設部門の職員数が適切かどうかということですが、これは年々、この土木事業に対して国や県の主導によってのいろんな厳しい指摘もございまして、業務量は同じ一つの事業をするにしても業務量がふえてるという状況はございます。そういう中で、適切な人員を確保し業務に当たっていくことが重要であるというふうに思っておりますが、今の赤磐市の人員が適正かどうかということもありますけども、今の人員を有効に活用しながらこの赤磐市の建設ニーズに応えていくということが大事だと思います。

そのために、人員をふやすことも解決策としてはございますけども、もう一つには職員の育成ということも有効になろうかと思えます。効率的な業務を行うためには、職員の育成が不可欠だと思います。そのために、今年度赤磐市においては、土木の専門の職員を任期付職員ということで、こういった経験をつんでいらっしゃるベテランの方を採用いたしまして業務に当たっ

ていただいております。この方に赤磐市の特に若い職員に技術を移転していただいて、職員の育成も図っていくというふうなことをやらせていただいております。そのほか、赤磐市においてもそういった技術系の職員を育成する手段、これからもいろいろ講じていきたいと思えます。そういった中で効率的な業務となるよう努めてまいります。

以上です。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 多少は変わったところがあるのは私も認めとんですが、もう少しやっぱし、特に市長が現場の関係等も踏んでこれとるベテランの、よう北川議員が言葉を使ようるプロパーじゃという言葉を使いますけど、と思いますんで、そこらの点を十分わかつとるはずですから、もう少しその辺はやっていただかないと、やっぱり専門職、特に国のいろいろ指摘されるのもそういうところの職員の不足の面も十分入っとなじゃないかと私は思います。だから、そこらを期限つきで今来てもらっとる人は、たちまちはそれでいいでしょうけど、やっぱり継続的にそういう者がいくようにしないと、何ぼ優秀なトップが上に座っておっても、やっぱり年が来れば定年退職でやめていくわけですから。だから、それでやる気のある若い者に仕事を仕込もうか思うて思っとしても二、三年したらぽんと異動されたじゃ何にもならん。やっぱし、そこらは話し合いをしっかりと、ほんまに人間をこういうように育てようと思うて、考えてやっておられる職員がおるんなら、それに対応できるような扱いをしていただかんことには、ただ年数がたったから、ちょっと覚えかけたのをまたすぐよそへ持っていく、それじゃやっぱし育成にならんじゃないですか。育成の仕方にもいろいろあると思うんですが。人事のことは、これからよう十分考えてやっていただければ結構ですから、この辺でやめますけど。

草刈りのほうへ戻りますけど、今早口でどっどどどどど沢原じゃ小瀬木じゃ、いろいろ言われたから、恐らくこれ小野田川の関係の県管理のそこじゃと思うんですが、吉井についても恐らく県管理の部分が大半じゃないかなと。それから、場合によったら建設省のそこも、草生の辺になると建設省の管轄ですけど、直轄は今県がやっとなされるんじゃないかな。例えば、50キロの制限の中より外れるんじゃないかと思うんで。その中で、ほんなら刈って、例えばシルバーさん使えばシルバーさんに当然市のほうから金を払う。へえから、地元で刈ってもらようるところについては地元へ、適正な単価ではないにしろお礼的なもんでお金をお支払いしとるという。全然してない場所もある。

それともう一つは、例えば県管理のそこを何で市がせにやいけんのですか。県の工事をしてもらうて、それが県工事でするんですから市はいらえんですわな、岡山市は別として。そうしたときに、負担金は15%と支払いをしょうるでしょう。ほんなら、草刈りしてから金をもらよんですか。入ってきよんですか、赤磐市に。その金を、入ってきた金で、例えばシルバーさんとか各区と契約を結んどるとこへ支払いがとんとんで納まっとなら、そりゃ金のことについて

ちゃはそれでええでしょうけど、その点はどんなんですか。金の出入りのことをちょっとお願いします。

○委員長（治徳義明君） 草刈りの答弁のほうを、よろしくお願いいたします。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 現在県管理の河川堤防についての草刈りについて、県からの歳入はございません。市のほうから全てが……。

○委員（行本恭庸君） もうわかった。よろしい。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） ないものを何で市がやりよんなりゃ、ほん、基本がそこ違うじゃないか。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 例えば、例えが悪いかもしれませんが一般的に市道等につきましても、地元のほうで市から委託をせずとも草刈り等もやってもらっている維持管理もしてもらっております。河川につきましても、通水断面が思わしくないような大きな木の伐採であるとかは県のほうでしていただきますが、いわゆる堤防断面の環境整備的なことについては市のほうで地元として行っております。

○委員長（治徳義明君） 行本委員、よろしいか。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） これは朝まで言うてもおえんような話じゃけど、基本的にな、県管理の部分なら県管理のところを受けてしょんなら全部やりなさい、ほん、そうじゃないですか。断面がどんなが、どこも一緒ですよ、条件は。何でほんなら大きなとこだけの、断面が大きなとこののり面の長いとこの、そりゃ確かに手間がかかるのはわかりますよ、何でそこだけやって、ほんなら大きいとこも小もうても刈らにやいけんことは一緒でしょう、うん。何でほんなら県管理のところを全部あんた、県管理のところが市管理のところでもあんたしょうりゃへんですが、ええ。見て見んふりしてから、お百姓さんがじゃな、もう年をとって若い者もおらん、やらん、しょうがねえから年寄りが老骨にむちを打ってから草刈りをしてくれようる、一生懸命。若い者になったらすりゃせんわな。何でうちがこねえとこ刈らにやいけんのんならと。そこの対策をどう考えとんですか。やってくりようるとこは目をつぶるときゃええ、へえから広いとこは金をかけてでも市がやるんじゃと。全て県にやってもらやよろしいでしょうが。できのんなら金をもらわにやいけまあが。どこがしょうと金が要るんじやろう。何でそんな金、市があんた、県管理のところをかぶってせにやいけんのんじゃ。答弁できる者で答弁してください。

○委員長（治徳義明君） はい、答弁を求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業部、水原です。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 行本委員の御質問の関係でございますが、県管理の河川の草刈りについて、市のほうといたしましても草刈りの実施については県のほうに要望してきとる経緯がございますが、県のほうは河川ののり面等の草刈りはやらないというような方針のもとで回答をいただいております、現在に至っております。地元の中で、景観的なものもございまして、現在草刈りのほうを実施いただいております非常にきれいにしておりますこと、厚く御礼申し上げたいと思います。

○委員長（治徳義明君） よろしいでしょうか。

はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） よろしいとは言えんわ。

県がしませんというものを何で市がするんなら、ほん。そりゃなわかるよ。例えば、県道で河川とついでから、その例えば管理棟的な県の土地のそこへじゃな、例えば熊山でしたら、通学路の関係とかそういうところでいろいろ舗装の整備をしてきた。じゃから、そうしたときにはそりゃ県でも、県のじゃったら路肩は刈るけど、道路関係じゃったら片1メートルしか刈らんですわ。じゃからそりゃ、県の土地であっても市や市町村がそこを使用すれば当然舗装させてもうて使よんじゃから、そりゃまあその片ぐらいのことはするのは構わんと思いますけど、基本的に県がせんというものを何で市が銭までかけてせにやいけんの、市もせにやええが。市がどうしても必要なところは、例えば道路で使つとるとか、そういうところがあればそれに支障がないだけのところを刈りやええんじゃないですか。最小限に済ます方法を。そうすりゃ要らん銭を使わんで済むんじゃないんですか。これからどんどんどんこういう場所がふえてくるんですよ。一方じゃどんどんどん県がせんというようなどこまで市が金を使うてやって、吉井の奥のほうへ行ってみられえ。山道ばっかしじゃが。へえでも家がありやあ、道を管理せんわけいかんじゃろう。それを地元の一生懸命やってくれとるけど、限界があるわ。ほんならそれはどこがするんならというたら、市がせにやしょうがないじゃろう。あんた方はもうおえんから、もうここじゃおえんから山陽町のほうへ引っ越ししてくださいと言えまあ、ほん。じゃから、費用対効果は少のうても、人が住んどるのには絶対にせにやいけんというものがあるでしょう。そういうところがどんどんどんこれからふえてくるんですよ。それなのに何でこんな広い県がせにやいけんようなところをじゃな、市がせにやいけんのんなら。考え違うじゃないか。やるんなら全てやってくれにやいけんが。その点、答弁願います。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。ちょっと明快にお願いします。

○委員（行本恭庸君） 部長が話、答弁できるんか。金の話でおめえ。

○委員長（治徳義明君） まあまあ、ちょっと押さえてください。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業、水原です。

○委員長（治徳義明君） はい、水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 河川の管理につきましては、河川法の改正もあつたりしまして現実……。

○委員長（治徳義明君） 原理原則を教えてください。

○建設事業部長（水原昌彦君） 地域の川として管理しましょうという事業があつたと思います。そういった中で、今現在管理していただいているところにつきましては、皆さんがその地域の川としての意識を持って実施していただいとると思いますので。確にお金はかかりますが、その環境面におきましてきれいにするという意識の中でやっていっていただいとるということでございますので、御理解のほうよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（治徳義明君） よろしい。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） 補助金の少しでもとってきなさいや、ほん、市長。へえで、ここへ予算載つとるでしょう、200万円の竹木等の処分費で上げとろう。県がすべき問題でしょう、こりゃ。ここまであんな市町村がかぶってよ、草刈りまでかぶって、何の得があるんなら、一つもありゃせんじゃろう。基本的には皆県がすべきもんじゃが。この200万円の予算組むのやめとけもう、使うの。何でせにやいけんの市が。

○委員長（治徳義明君） 市長、答弁できます。

○議長（金谷文則君） ちょっと、休憩せん。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩します。

午前10時57分 休憩

午前11時9分 再開

○委員長（治徳義明君） それでは、再開いたします。

答弁を求めます。

水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 河川の草刈りに関しまして御答弁をいたします。

この河川の草刈りににつきましては、基本といたしましては地域の方がきれいにするという精神のもとにやっていただいております。市といたしましては、地元の方と共同という格好でございまして、共同でその環境美化のほうへ努めているということでございまして、熊山地域につきましてはわずかではございますがジュース代程度のお支払いをしております。また、吉井地域につきましてはアダプト制度で実施しているということでございますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

○委員（行本恭庸君） よろしくない。

そりゃ、地元でしていただけて、金を払ようらにゃええよ。金を払ようるところ払ようらん

とができとるから問題視しとるわけで、わしは、ほん。それと県から当然金をもろうてもおかしゅうねえとこを県にもらわんから指摘しとんでしょうが。県からもろうてこんのは、まあええにしても。金をあんだ、個人のとこじゃない、公のとこを個人が刈ってくれようるところには皆払わにゃいけまあ、大なり小なり。面積が広かろうが狭かろうが。その点を払うんか、どうなん。今年度はよろしいけど、来年度予算からそういうようにしてくれますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） お答えします。

いずれにしても、お金の支払いというのはこのかなり大きな規模で刈っていただいております。先ほど来も議論にありましたように危険を伴うような作業も含めて地元のほうで本当に協働の精神でやっていただけて深く感謝してるところです。こういった中で、市としても厳しい財政状況の中ではございますけども、先ほど部長から答弁さしてもらいましたけども、わずかながら、本当に不十分で申しわけなく思ってるんですけども、赤磐市としてできるだけのことを、感謝の意を含めてさせていただいております。全市においてこれを実施するべきだという声は御理解いたしますけども、先ほども言ったように厳しい財政状況の中で最大限のことをさせていただくことを、腹の中に持ちながらさせていただきたいということでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（行本恭庸君） 一言だけええ。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 腹の中へ持ったって何にもならんのんじゃ、ほん。くそにもなりやへんそんなことは。平等になるように何でやれんのんなら。もうやれん者を相手にして話をしてもしょうがないやめた。もうよろしい。

○委員長（治徳義明君） はい。

先ほど、保田副委員長の発言の中で・・・・・・・・・・という発言ございましたけれども、不適切と思いますので会議録からのほうから削除いたします。御了解ください。

そのほかに、質疑ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければ、ちょっと1点、草刈機の件で確認なんですけども、本日も耐用年数の問題であるとか、講習会の問題等で安全対策についての質疑がたくさんあったんですけども、本議会のほうの質疑の中で機械そのものがもう古くて、耐用年数という意味ではなくて、もう少し安全対策がきちっとできている機械があるんじゃないかというような質疑もあったと思うんですけども、機械そのものの安全対策上問題はないのかどうか、ちょっとその辺の。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） 今回の修繕につきましては、部分的な修繕ということで行っております。それで、本体全体につきましてはの異常につきましては点検の中で異常はないということを確認いたしております。

○委員長（治徳義明君） いや、じゃあなしに、この草刈機そのものがもう古くて、最近の安全対策がしっかりできている機械と全然違ってきてるんじゃないかというような質疑があったと思うんですけども。本議会の中では否定はしなかったと思うんですけども、この機械そのものがもう、耐用年数という意味じゃありませんよ、もう古く、修理を行ってるとか、そういうレベルじゃなしに、機械そのものがもう現状とマッチしないんじゃないかというふうな、先ほども休憩中に、もう最近では無線のコントロールでできるような機械も流布しているようなお話もありましたし、その辺はどういうふうにお考えなのかということをお聞きしたいんですけど。

○建設課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中川課長。

○建設課長（中川裕敏君） この購入時から現在に至る経緯といいますか、機械につきましては今もカタログに載っている同じ製品がございます。その中で、やはり機械によって登坂能力であるとか、そういう能力が変わってまいります。その点については、その能力以上のことをしないようなことということで、講習を行うときにもその辺の徹底もしながら現在の、安価な機械でもございませんで、現在の機械でできる範囲のことを行い、その他のことについてはほかの方法で対応のほうをしていくことも考えていきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければ、これで質疑を終わります。

続いて、議第75号平成27年度赤磐市簡易水道特別会計補正予算（第1号）を議題として、これから審査を行います。

執行部から補足説明がありましたらお願いいたします。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業部、水原です。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 議第75号平成27年度赤磐市簡易水道特別会計補正予算（第1号）につきましては補足説明ございませんので、よろしくをお願いいたします。

○委員長（治徳義明君） これから、質疑を受けたいと思います。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければ、これで質疑を終了いたします。

続いて、議第76号平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）を議題として、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いをいたします。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長、建設事業部、水原です。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 議第76号平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）につきましても補足説明ございませんので、よろしくお願いいたします。

○委員長（治徳義明君） それでは、これから質疑を受けたいと思います。

質疑ございませんか。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければこれで質疑を終了いたします。

それでは、ただいまから本委員会に付託されました議第70号字の区域の廃止についてから議第76号平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）までの4件について採決をしたいと思います。

まず、議第70号字の区域の廃止について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

起立全員です。したがって、議第70号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議第71号平成27年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） 起立全員です。したがって、議第71号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議第75号平成27年度赤磐市簡易水道特別会計補正予算（第1号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） 起立全員です。したがって、議第75号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議第76号平成27年度赤磐市下水道事業特別会計補正予算（第2号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） 起立全員です。したがいまして、議第76号は原案のとおり可決するべきものと決しました。

以上で当委員会に付託された議案の審査は全て終了いたしました。

次に、閉会中の継続調査及び審査についての御確認をお願いいたします。

お手元に配付しておりますとおり、継続調査及び審査一覧表のとおり、議長に対して閉会中の継続調査及び審査の申し出をいたしたいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

それでは、このように申し出たいと思います。

なお、委員長報告については委員長に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

次に、その他に入ります。

その他で委員さんまたは執行部から何かありましたら発言をお願いいたします。

○産業振興部長（奥田吉男君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） それでは、本日の産業振興部の資料に基づきまして、農林課及び商工観光課の今現在の事業の進捗状況について、それぞれ担当課長より御説明を申し上げます。

○委員長（治徳義明君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） それでは、産業振興部資料の1ページをごらんください。

事業の進捗状況について御報告をさせていただきます。

まず、赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略「強い農業の確立プログラム」の具体的な展開について御報告をさせていただきます。

強い農業の確立プログラムの具体的な施策展開を図るために、赤磐市経営・生産対策会議で展開方法を検討することとしております。12月16日水曜日に会議のほうを開催する予定としております。この会議では、認定農業者の会や農業経営者クラブ協議会、農業士、農業委員会委員、備前県民局農畜産物生産課、東備農業普及指導センター、岡山東農業協同組合等から寄せられた意見を参考に検討をしていく予定としております。

次に、多面的機能支払交付金事業についてでございます。

この事業については、前回の委員会で資料をお配りしましたが、わかりやすいパンフレットがありましたので、簡単に事業の説明を先にさせていただきます。

2 ページのほうをごらんください。

この一番上の段に書いてあります、この事業の目的ですが、農業・農村には洪水や土砂崩れの防止、自然環境の保全、美しい風景の形成などのさまざまな働きがありまして、これらを多面的機能というふうに位置づけております。この多面的機能が、適切に発揮されるように交付金によりまして地域の共同活動を支援しようというものが、この事業でございます。

この事業には大きく2つの活動がございます。真ん中の段にあります、農地維持支払と一番下にあります資源向上支払、この2つの活動がございます。

まず、農地維持支払につきましては、農地ののり面や水路、道路ののり面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持などの基礎的な共同活動を支援するというものでございます。それから、一番下の資源向上支払というのは、水路や農道等の施設の補修、それから景観作物等の植栽、それからビオトープづくりなどの共同活動を支援するというもので、地域の中でこの農地維持支払に取り組むのか、それとあわせて資源向上支払にも取り組むのかというのは地域の話し合いで決めてもらうこととしております。

裏面をごらんください。

この交付金の単価でございますが、取り組み活動によりまして単価のほうが決まっております。田んぼの場合で申しますと、①の農地維持支払に取り組む場合は10アール当たり3,000円、それから②の資源向上支払の共同活動に取り組む場合、これは軽微の補修や植栽等に取り組む場合は10アール当たり2,400円が交付されます。また、資源向上の長寿命化ということで③番にありますが、これは農道の舗装、大規模な修繕、水路やゲートの更新等、施設の長寿命化を図る取り組みですが、その場合は10アール当たり4,400円というふうに単価が定められております。ただし、①、②、③を一緒に取り組む場合は合計で10アール当たり9,200円の交付単価というふうになっております。この交付金の額につきましては、活動エリア内の農振農用地内の農地面積に応じて計算をされることとなっております。

では、また資料の1 ページのほうにお戻りください。

現在、事業の取り組み地区の増加に向けまして、11月5日に先進的に活動されている団体のほうから取り組み状況等の事例発表会を開いております。それに引き続きまして、現在旧町ごとに事務手続等の説明を開催しております。旧町ごとで、山陽地区については、12月15日火曜日に産業会館のほうで開催する予定にしております。現在14地区から44名の参加の申し込みをいただいております。赤坂地区につきましては、12月9日水曜日、昨日ですが11地区21名の参加をして開催をいたしました。また、熊山地区については、12月8日に開催しまして、7地区17名の参加をいただいております。吉井地区については、12月14日に吉井支所で開催する予定で、14地区から29名の参加の申し込みを現在受けております。今後は、事業への参加意向が固まった地域から、平成28年度からの実施に向けて個別に詳細をつめていきたいというふうに思っております。

農林課からは以上でございます。

○商工観光課長（矢部恭英君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 続きまして、商工観光課関係の御説明をいたします。

産業振興部資料の3ページをお願いします。

事業の進捗状況について御説明いたします。

(1) 番、賀詞交歓会等の開催についてということでございます。総合戦略の策定に当たりまして、企業の皆様の意見をお聞きしたところ、企業間の交流が少ないという御意見をいただきました。それを受けまして、市内の企業、それから団体等の異業種間のつながりの強化、それから情報交換、親睦交流の促進を行うことが1つの目的、それから2つ目といたしましてUターン就職のきっかけづくりを行いますあかいわに帰ろうプロジェクトで、本市出身者に「まち・ひと・しごと情報」を発信いたしまして、帰省を促したり、Uターンへのきっかけづくりを行う計画がございます。このために、市内企業の将来的には市内企業の連絡会を組織を目標といたしまして、情報発信等の体制整備を促進することを2つ目の目標といたしまして開催いたしますものでございます。日時でございますが、来年1月27日水曜日、10時30分から13時、桜が丘いきいき交流センターで計画をしております。主催でございますが、赤磐市と赤磐商工会の共催で実施を予定しております。対象者でございますが、市内企業、団体で、部屋のほうに限りがありますので先着70名で予定しております。それに合わせまして講演会を予定しております、内閣府の参事官のほうに来ていただきまして、最近の我が国の経済情勢についての講演を予定しております。

次に、(2) 番の小瀬木地内の企業立地用地の検討の状況でございます。

11月17日に地区の窓口であります連絡調整委員会を開催いたしまして、この先週ですけども、12月5日に地権者の説明会を開催いたしました。内容でございますが、地権者の意向調査の結果についての御説明、それからこれらの御意見をお伺いいたしました。

意向調査の結果でございますが、一部土地の利用について計画をお持ちの方もおられますが、おおむね用地の利用につきましては御協力をいただける内容でございました。

4ページのほうに、区域、検討用地の図面をつけさせていただいておりますが、下側の黒いところが2.8ヘク、ここが当初市のほうで用地の検討をしているところでございました。御説明できましたところ、その上のちょっと薄い0.9ヘクの場所でございますが、地区のほうからこの利用についての検討の意見等の要望がございました。

地区のほうからの出た御意見といたしましては、通学路それから水路等への配慮、それから今御説明いたしましたが、用地の利用についての検討をしていただきたいということでございます。今後は、このいただいた御意見につきまして、市のほうで検討を行ってまいりたいと考えております。

次に、(3)番、あかいわ山陽総合流通センターについてでございます。

あかいわ流通センターの区画7、8の一部でございますが、株式会社グリーン・グロウが一応計画いたしております、この11月27日から現地で造成工事に着手いたしました。その後、倉庫を建築工事を行いまして28年8月の操業開始を予定しております。

次に、(4)番のプレミアム付商品券の状況についてでございます。

12月7日現在でございますが、使用率が86.55%でございます。使用期限が、この12月31日まででございますので、市の広報紙、ホームページ等への掲載、それから山陽新聞等への記事の掲載の依頼、それから12月に区長会等もございますので、そちらのほうでも利用についての促進をお願いをしてまいりたいと考えております。

それから、チラシを配らせていただいておりますけど、12月20日曜日に英国庭園のほうでクリスマス・コンサートの予定がありますので、お時間が合いましたら行っていただければと思います。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 産業振興部のほうからの事業の進捗状況などについての御説明がありましたけども、質疑に移らせていただきます。

何か質疑ございますか。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 3ページの分、賀詞交歓会についてですが、これ70名で先着なっておりますわね。へえで、その6番に講演会があつて、2人の方が予定をされとるでしょうけど、これ会場はあのひな壇のつく、あの250席のところを使うわけ。

○商工観光課長（矢部恭英君） はい。

○委員（行本恭庸君） そうしたら、250名の座れるところへ、70人だけでやるんですよ、これ。もったいないですな。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 商工観光課、矢部です。

今、行本委員さんのほうから御意見がありました。この先着70名というのは、賀詞交歓会で企業同士の交流会というので、別室、ホールとは別のところで市内の企業の方を対象に予定しております。講演会につきましては、250席、ホールのほうで計画しております、市内の企業、それから東備管内の企業にも御案内を差し上げまして250名の先着順ということで考えております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） そうしたら、例えば先着70名の企業関係の、商工会が主催になってやる賀詞交歓会、そりゃもう、そんなもん私は関心ないんじゃないけど、大いにやってもらええけど、講演会だけ例えば聞きに行こうと思うたら250名ででしょう、今の説明で。そういうことをここへ書いてないんと、へえから時間が書いてないんでな。上の時間帯でダブって10時半から1時の間に入っとるとは思いませんので。そうしたら、やっぱりこれ資料としたら、ここへ人数も新たにあって、時間が何時から何時でということを書いとかにゃいけないんじゃないですか。

○委員長（治徳義明君） 答弁をお願いします。

矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 濟いません。10時30分から13時についての内容ですけども、10時30分から12時の間で新春講演会をいきいき交流センターの大ホールのほうで予定しております。その後12時から13時で賀詞交歓会のほうを、市内企業を対象といたしました賀詞交歓会を会議室のほうで予定しております。申しわけありません。よろしくお願いします。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

○委員（行本恭庸君） 資料を出してもな、もうちょっとこういうふうにぴしっと質問せんでもええ、わかるような資料にしていきたいですな。

それからもう一つ、小瀬木地区の分ですが、これは今どこまで話がいったんですか。地権者の了解はほぼいいんでしょうけど。地元との話の内容は、どこまでいったんですか。もうちょっと具体的に説明してください。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○商工観光課長（矢部恭英君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 現在の小瀬木地区との説明の状況でございますけども、意向調査というのは、まず地権者の方に地区の要望されとる土地も含めましての、地権者の方に御意向をお聞きしました。その結果につきまして、一部利用計画がある方もおられますが、その方については一応の工業用地として整備することについては御理解をいただいた状況でございます、それにつきまして地権者の方に集まってお聞きまして、それぞれがほかの地権者の方がこういう状況であるということをお説明した状況でございます。

それから、ここの区域につきましては御要望地区からの御要望もある区域につきましては、通学路や水路や利用計画等を地元とこれから協議をしながら検討していきたいというところでございます。具体的には、これから詰めていくようになると思います。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 予定としたらどういう、後の、例えば用地買収の話ももちろんなけり

やできんわけですから。こういうとこへ、企業誘致するのに団地をつくりたいというのはよくわかります。問題はそこから先、単価とか、いろいろ場所によって状況は違うでしょうけど、買収の単価とかそういう話が先じゃないですか。そりゃ、当然地元のその要望を入れて、通学路とか水路とか、いろいろ言われたけど、それは用地買収がかのうての話であって、並行してそういうのもやっていきゃあえんじゃけど、買えるか買えんかわからんものをそねなものを先先話をしてみたところで、やっぱり一番に順序立ててやるとすりゃ、まずこういうのをしたいんじゃないと、そうしたら今度は用地買収をいつごろまでしたいんじゃないと。そういう、やっぱり計画があってやるんじゃないですか。行き当たりばったりで、ここ用地があるから、ちょっとできるかできんかわからんけどやってみましょうかなというところで、期限つきでなしに、もう大ざっぱに何です、いつできるかわからんのに取り組んでいきよんですか。

もう少し計画性のある説明をしてくれる。こんな前から聞いとるが、こんなのは、場所は。面積何ぼじゃという、わしも質問しとるが。そしたらこれこういうとこじゃというのは、きょうは色塗りしてあるからわかるんですけど。もうちょっと内容をね、委員会には言えれんの。単価の値段をどうのこうのという話は、これは別に今は聞こうとは思わん、そりゃもう折り合いのついたとこでやっていただきゃえんじゃけど。しかし、やっぱり先にそういうもんが話をする時期、もうきとんじゃないですか。どんなんですか、それを、これの計画を、もうちょっとわかりやすく説明していただきたいですが。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） お手元の資料のほうで4ページのほうに図面を、配置図面をしております。この中で、地元から追加の要望があったのがこの松木のほうへ向けてのこの部分です。一番当初うちが考えておったのは、この黒い部分で計画をしておりました。地元の要望の中でエリアの中にここも検討に入れてもらえんかという御要望がありました。その中で、先ほど申し上げた通学路の問題、それから排水がここに入っておりますので、排水をどういうふうはこのエリアから回していくか、それから近隣に家なんかもございますので、この土地利用について概略の計画をしまして、進入路でありますとか、子供の安全対策の通学路、そういったことを含めて地元と再度を協議をしまして、最終的にエリア決定をした段階で単価交渉での金額、エリア決定を先にして単価の協議という形で考えております。これまでも、県南で企業誘致の場所がないということで、赤磐市についても早期の立地を進めたいと考えておりますので、そういった地元との協議を踏まえて、今後予算等で議会のほうへ提案をさせていただきたいと考えております。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（行本恭庸君） いつごろ完成する予定の目的で……。

○委員長（治徳義明君） いや、発言をされます。発言をされますか。

○委員（行本恭庸君） うん、する。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） そこまで説明してくれにやわからんじゃねえか。説明不足。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○委員（行本恭庸君） こげえな質問が出るぐらいなことはわかっとうろ。

○委員長（治徳義明君） 大丈夫ですか。

○委員（行本恭庸君） 出とかにやおえんで。

○委員長（治徳義明君） できますか。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 済いません。私のほうから御答弁させていただきます。

今回の小瀬木地区については、この赤磐市への工場等の進出の引き合い、話もございしますが、その提供できる土地がないということからここの地区を検討してはどうかというところからスタートしておりまして、これについてももし実施するという方向性を示した場合にこれが円満に、円滑に事業が進むことができるかどうか、これを地域の方々に意見を求めて、これが大きな障害となるものがあるかどうか、こういったことを調べるために地元の方に意向を確認している段階です。そうして、これを全て条件を確認した後に、この工業団地の拡張が可能かどうかを判断いたしまして、この産業建設常任委員会にもお諮りしながら、この後に実施の意思決定をしていきたいと思っております。その意思決定の際には、計画性をしっかりと御説明させていただいて完成目標とかどういった業種を目指しているとか、こういったことも含めて計画をお示ししての意思決定をしていきたいと、そういう状況でございしますので、今回はこの地元説明によって地権者等に大きなこの障害がなかったという確認ができたということを報告させていただいたところでございます。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか、行本委員。

○委員（行本恭庸君） ええ。

○委員長（治徳義明君） そのほかに質疑ございませんか。

○委員（佐藤武文君） 委員長、よろしい。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 多面的機能の関係についてお伺いしたいんです。

というんですが、先般の閉会中の委員会のときにこのことについて説明をいただいて、私も何人かの区長さんにお話をさせていただきました。そのときに、いろんなことを聞かれて、私も勉強不足なところがあってなかなかそのことについて答えることができなかった。とにかく一遍

取り組んでやってみてくださいということだけしか、私は言えなかったんです。

それで、今回説明会をするということで、山陽地域を皮切りに全部で46地区の参加しか区長さんが参加をされていないということで、私が一番気になるのは、何で区長はうちの地区はこういうことをせなんだんだなということで、区長さんが責められるようなそういうことも起こり得るのではないかと。例えば、きょうこの具体的に泥上げ、水路の溝掘りも対象になるということで、この溝掘り等々についてはどこの地区も恐らくやられておると思うんです。それが対象になって、ある地区にはなってる、うちの地区は対象になって、うちの隣の地区は対象にならなかったということになった場合に、隣の地区の区長さんが非常に責められるのではないかなと。そういうことが危惧されるんです。半分以上の地区がこれに、要するに参画をする意思を持ってられないということを聞いて、こういうような形で本当に私はいいかどうかということをやちょっと危惧しとんです。その辺の進め方について、もう一度詳しくお聞きしておきたいんですけど。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○農林課長（若林 毅君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 現在、地区の説明会のほうを進めておりますが、申し込みのほうで46地区と少ないんじゃないかということでございます。

今までにも地域の方にも説明をしてきておりますが、説明会の中ではやはり農地ののり面等を共同で草刈りをするというようなことがなかなか話し合いが難しいというような話もあります。今回は46地区でございますが、できるだけ多くの地区に取り組んでいただいて、そこがモデルとなりまして、今回参加なかった地区も自分の地区もやってみたいというふうな起爆剤になればというふうに思っております。ですから、推進については今後も進めていこうと思っております。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、その内容は、そりゃ今言う区長さんの理解がそういうふうなのり面を云々というていうようなことになったら、そりゃ地区の中でもいろいろ難しい面が出てくると思うんです。ただ、今言う、水路の水上げを、泥上げをすることが対象になるということになったら、どこの地区も恐らくやられておるのではないかと思うんです。だったら、それがその今言う、うちの地区は対象になるけど隣の地区は対象になってなかったということになったときに、区長さんが責められるんでないでしょうかと、区長さんの立場がなくなるのではないのでしょうかということを、私は心配しとんです。私も説明するときに詳しく説明できなかったんです。よくわからなかったんで。要するに、参加してくださいということを区長さんにしか、もうこれは私は言えなんだんです、はっきり言うて。ただ、具体的なことがいろいろ

る事例が挙がってきたときに、区長さんがしもうたうちもそれだったら対象になることがあったんだという認識をされたときに、それぞれの地区の中でいろんな波紋が広がるんじゃないかなということを私は心配をしとる。その点について、行政のほうは、その今言う、説明の仕方が私はよくないんじゃないかなという感じを持っておるんですけど。あくまでも、そういうふうな説明不足ではないということ、今は課長が言われるんですけど、私は説明不足の点があったんじゃないかなという気持ちを持っておるんですけど。泥よけは対象になるんですよね、これ。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 水路の泥上げ等も活動の対象となります。ただ、維持、この支払の関係では農地等ののり面の草刈り、水路の泥上げ、そういったものを全て行わないといけると、一部、部分での活動はだめだということもありますので。ただ、水路の泥上げをやっているから対象になるというものではございませんので、その辺はまた説明をさせていただこうと思います。

○委員（佐藤武文君） ちょっ、ちょっ、ちょっと。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 要するに、水路の泥上げは対象にならんけど、その水路の回りの草を刈ったら対象になるんということ。

○委員（行本恭庸君） 両方せにゃいけん。単独だけで……。

○委員長（治徳義明君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 取り組み事例としまして、農地等ののり面の活動が1つ、それから水路の泥上げが1つ、それから農道等の草刈り、それからため池等の草刈りが1つ、それを全て取り組まないといけないというのが条件になってきますので、一部分だけではちょっと対象にならないというのがあります。

○委員（佐藤武文君） ちょっと、いい。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 1事業だけでは対象にならない。今言われた3つの事業を全てやらなければ対象にならないということですか。そういうことですね。はい、わかりました、わかりました。

○委員長（治徳義明君） 中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） この多面的機能支払なんですけども、草刈り、泥上げという言葉が出てきてるんですが、もともとはこういった水路の草刈りや泥上げっていうのは、昔から農家の集落の方々がみんな一緒に、大体皆さん、稲刈り、稲作で同じタイミングだったので共同でやってきたと。そんな中で、地域のコミュニティなんかも生まれていたというよ

うなもともと経緯があります。それが、10年、15年ぐらい前から、だんだんそういった高齢化が進んだり、過疎化が進んだり、だんだん非農家の人がふえていってきたりする中で、地域のそういう水路、草刈りや泥上げっちゅうものの負担が、極端に農家の方だけに押しつけられるようになってきたというようなことで、そういったことが農地が荒れてみたり、水路が荒れてみたり、そういったことが起こってきたので、そこは昔のようにといい方がおかしいかもしれませんが、地域の人がみんなで一緒に共同でやりましょうというような形をとれば、そうすると農村や農業が持っているいろんな機能っていうものが昔のとおり発揮できる、そういった地域をつくろうということで、それに対して国が、本来普通にやっていたことに対して交付金を出して、それをみんなでやっていただきたいというようなことで、これは10年前から制度はスタートしています。その制度が、広く全国的に認められて、ようやくこの27年から法律に基づく事業、事業といいますか交付金という形になりました。それで、そういったこともあって赤磐市でも昨年、ことしから説明会を開かせてもらってまして、ここも11月にも開かせていただきましたし、また12月にも開かせていただいているところであります。

趣旨としては、要は1人で草刈りをしたから支払われるというのではなくて、これはみんなで一緒に協力して草刈りをしましょう、水路の泥上げをしましょうということに対して、ある意味それが条件になるんですけども、そういったものに対して支払いましょうという仕組みなんですけれども。これまで、参加されている区長さんなどからいろんな意見を聞くんですけども、そんな中で、なかなかそう共同で、みんなで集めるのが難しいというような声もかなりありまして、すぐにはそういうみんなを集めて、みんなでやっていこうという、そういう体制づくりが難しい地区もあるというのは聞いております。そういったところは、地区によってはすぐまとめるよというような地区もあるんですけども、なかなかそうじゃない地区もあるということでもありますので。今参加していただいているのは、どちらかというとすぐにでも地区全体をまとめて、農家の方も非農家の方も含めてみんなで草刈り、泥上げをできるかなというところ、今集まっていたいております。それ以外のところについては、なかなかそういう地区のまとめっていう部分が、やはりこの事業、重要になってくるので、そこは少し時間がかかるかもしれませんが、引き続きそういう先に走っているところの例も見てみながら、遠くの地区じゃなくて隣の地区でやっていると具体的に様子がわかってくると思いますので、そんなところから、ことしだけが採択の年じゃなくて毎年少しずつ広げられていくものなので、そんなふうにして来年度以降もこの活動を広げていって、最終的には全市が、全市の全地区でこの事業を実施するという形に持っていきたいと思っています。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） はい、ありがとうございました。

今言われた、みんなというのが、解釈はどのくらいな人数がよればみんなとなるのか。例え

ば、100戸あったら100人来てくださいというのはちょっとこれは無理だと思うんです。100人が50人じゃったらよろしい、20人だったらだめですという、その定義はちょっと難しいと思うんです。その点をもう一度確認したいということと、それからもう一点は、これは国のほうの補助金が2分の1、そして県と市町村が2分の1になっとなりますね。これ市町村の持ち分は県と折半ですか。どのようになっとなるか、その辺をちょっと詳しく教えてください。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） はい。

○委員長（治徳義明君） 中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） メンバーがどういう構成になるべきかという点ですけども、幾つか支払のメニューによってその構成員の割合は違うんですが、何人という制限はありませんが、あくまでも共同でやるということが大事なので、その水系のつながりとか、その地区という単位だとか、その単位の組み方もこれというものはありません。その中に、基本的には農業者だけっていうんじゃないくて、できるだけ非農家の方も入っていただくというようなことで、これは国では基準は示しておりませんが、例えば岡山県としての基準が決められているので、その農家の方は半分以上いかなきゃいけないとか、そういった基準はありますけれども、そんなにそのがちがちに枠を決められたものではないということですので、そこは御相談しながら調整していくという格好かなと思っています。

あと予算についてですけども、国が半分、残り半分を県と市でということなんですが、一応そこは折半ということ。

○産業振興部長（奥田吉男君） 4分の1。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） ごめんなさい。だから、2分の1の2分の1で4分の1ということになってます。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員、よろしいですか。

○委員（佐藤武文君） はいはい、よろしいです。

○委員長（治徳義明君） ちょっと、関連して1つ確認です。

先ほど、佐藤委員のほうからもなかなか区のほうに理解がしていただく作業が難しいみたいな話がありましたけれども、中村政策監の話では、今後全てのエリアにやっていただきたいという、今後は継続して取り組むという話なんですけども、ぱっと見させていただいて、交付金のことですからもう仕方がないのかもしれませんけども、組織の立ち上げ、計画づくり、市町村による計画の認定、交付金の支給、活動の記録・報告等、云々、何か非常にぱっと見に、非常に手続が難しいようなイメージがあるんですけれども、先ほど申しましたように交付金ですから、もう手続は仕方がないのかもしれませんが、このあたりはどういうふうにお考えなんでしょうか。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） はい。

○委員長（治徳義明君） 中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 確かに交付金ということで、国の税金を使っていくということで、一定の手続がどうしても必要だということにはなります。この手続も、やはり使われるほうからとれば非常に手間がかかったり、事務が大変だという声がありまして、その10年前スタートしたときに比べると物すごく楽な格好になってはきております。それでもなお、もう少し、基本的にきちんと共同作業を何時から何時までやったかという、そういう確認ができないといけないということで、そういったところをきちっと整理するという作業が必要になります。それを、事務の紙にまとめるのがなかなか大変だと。要は、パソコンが使えないといけないけれども、そんな集落の中にそんなパソコンを使える人がいないというような集落もあるというようなことも聞いておりますので。今こういった、その文章をつくるにも簡単なソフトみたいなものがありますし、あと市役所のほうもできるだけそういった事務が難しいところにどういうサポートができるのかということのをちょっと今検討をしております。はい。

○委員長（治徳義明君） わかりました。

そのほかに質疑ございませんか。

○委員（佐藤武文君） いやいや、執行部はまだあるんじゃろ。

○委員長（治徳義明君） いやいや、この件について。

はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 言われるのはようわかるんじゃ。ただ、ここにも問題が1つあるんが、例えば泥上げとかというのがあるわな。泥を上げて、始末するところがなけにゃいけんの。そこはやっぱり行政でもってやってくれんとじゃな、してくれ、してくれと言うたところでどねえもならん。昔にや、例えば草を刈るんじやったら草刈機がねえ、手刈りじやったから溝の中に落とす者おりゃへんわ。のう。刈ったのはきれいにちゃんとして、その時分には牛も飼うたりなんかしとったから、そっちに始末したりしょうったけど、今草刈機で刈るからたったたつた刈るわな。へえで、水路に落とすわな。へえで上げんのじゃから、ほったらかしで。へえで泥上げも、上げたとこでまだ泥ねえから、そこののり面の急なとこへ上げるん。ほんなら上げられたら、もつとる者はかなわんわけじゃが、また草刈ったらまた落ちるわけよ。だから、そういうやろうとするのはわかるんよ。全体的にそういうとこの一番難しい問題はそちのけにしてえて、やってくれやってくれ、へえで単価何ぼ出しますからやっとうこういう言うたって、そういうものをやろうとしたらそういうとこも必要ないともまず一番だと思ふんじゃ。だから、そこらの準備も並行してやってくれんことにはな、なかなか難しいんじゃね。よう考えてえてください。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 今おっしゃられた、草を刈った刈りっ放しとか、そうい

ったことについても、この交付金は農振農用地の面積に応じて支払われますが、その使い道としてはもちろん草刈りしたり、泥上げしたりするその人夫賃ということにも使えますし、あと草刈機の修理だとか、そういったものにも使えます。もし仮に、あとその刈った草をどう運ぶかという話も、そういったものの費用にも……。

○委員（行本恭庸君） 処分とか、処分の場所が。言ようるんで、わし。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） そうですね。ですから、そういったところもその集落の中で検討していただくと。それは、市がどういう支援ができるかっていうのはあるとは思いますが、そんなことも一緒に考えていく必要があると思ってます。

以上です。

○委員（行本恭庸君） 地元を考えよんじやな。はい、わかりました。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

そのほかにありますでしょうか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 非農家と農家と混在しとる地区も結構あるかと思うんですけど、さっきの説明では当然非農家であっても一緒に泥上げなりすれば、できたらそういうことが目的じゃということと言われとったんですけど。例えば、非農家だけで池のそばを刈ったりとかという、我々のところやこうでもあるんですけど、そういうもう非農家だけで、この池の土手をこっち面しとるところを刈るとかというのは全く対象にならないんですよ。農家ということ、農業をやつとるということがある程度の認定には……。

○委員長（治徳義明君） 農地。

○副委員長（保田 守君） 農地を持っとらなんだらいかんのですよね。

○委員（行本恭庸君） そりゃそうじゃ。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

若林課長。

○農林課長（若林 毅君） この取り組みにつきましては、農業者も絡まないといけないというふうな規定もございますので、非農家だけの取り組みはこの事業ではできないものと思っています。農業者とやはり一緒になって地域で、共同で取り組んでいただきたいということでございます。

○副委員長（保田 守君） わかりました。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようでしたら、産業振興部の事業進捗状況の報告については終了させていただきます。

ここで、途中でございますが13時まで休憩といたします。

午前11時59分 休憩

午後1時0分 再開

○委員長（治徳義明君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

執行部のほうから、その他の案件でございませんか。

水道は。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 岩本課長。

○委員（行本恭庸君） 水道のメーターええで、もう。

○委員長（治徳義明君） いや、資料がついとるじゃないですか。はい。

岩本課長。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 水道メーターの交換につきまして、進捗状況のほうを御報告させていただきます。

建設事業部資料の4ページをお願いいたします。

まず、検定満了切れメーターの総数でございますが1,535件、そのうちきのう現在で1,490件、一般家庭が1,405件、大口径、これは事業所、公共施設等でございます。これが85件につきましては、交換を済ませております。次に、残りの45件につきましては、一般家庭につきましては25件ございまして、きょうじゅうに交換する予定でございます。大口径の20件につきましては、日程調整ができ次第、随時交換のほうを予定しております。その後、最終チェックを行いまして漏れがないかを確認し、12月末までに全て取りかえを完了する予定でございます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 課長、きょう現在じゃなしで9日現在でよろしいんですね。

○議長（金谷文則君） 今言い直したよ。

○委員長（治徳義明君） 先ほど、きょう現在。

○議長（金谷文則君） 言い直した。

○委員長（治徳義明君） え、言い直されとりました。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 9日現在です、済いません。

○委員長（治徳義明君） 9日現在ですね。はい、ありがとうございました。

この件につきまして何か質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようでしたら、次へ移ります。

委員の皆さんのほうで何か。

○産業振興部長（奥田吉男君） すいません。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 先月、11月の産業建設常任委員会のほうで御報告をさせていただきました。総合計画、総合戦略の具体的な実施に向けての、どういう進め方でいくというのを御説明をいたしました。先ほどの、強い農業づくりに関しましては、いろんな生産組織等から御意見をいただいて、12月16日に開催します経営・生産のほうで具体的な施策の展開について話をさせていただく予定です。

.....

○委員長（治徳義明君）

.....

○委員（佐藤武文君）

○委員長（治徳義明君）

○委員（佐藤武文君）

.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

○委員長（治徳義明君）.....

○委員（佐藤武文君）.....

○産業振興部長（奥田吉男君）.....

○委員長（治徳義明君）.....

○産業振興部長（奥田吉男君）.....
.....

○委員（佐藤武文君）.....

○委員長（治徳義明君）.....

○委員（佐藤武文君）.....
.....
.....

○委員長（治徳義明君）.....

○委員（佐藤武文君）.....

○委員長（治徳義明君）.....

○委員（佐藤武文君）.....

○産業振興部長（奥田吉男君）.....

○委員（佐藤武文君）.....

○委員長（治徳義明君）.....
.....

○産業振興部長（奥田吉男君）.....

○委員長（治徳義明君）.....

○産業振興部長（奥田吉男君）.....
.....

.....

○委員（佐藤武文君）.....

○議長（金谷文則君）

○委員長（治徳義明君） ちょっと、暫時休憩。

午後 1 時 7 分 休憩

午後 1 時 9 分 再開

○委員長（治徳義明君） それでは、再開いたします。

ただいまの 削除させていただきます。

そのほかにごいませんか。

執行部のほうからはもうよろしいですか。

委員の皆さんの中から。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私ちょっと 2 点ほど、御報告なり御相談なりをさせていただきたいんです。

まず 1 点は、我々産業建設常任委員会の中で共通認識をしたほうがいいと、私自身が判断をさせていただいたのは、そのことについて私はちょっと述べさせていただきたいと思うんです。

今赤磐市議会の中では、百条委員会と称した委員会が開催をされとります。そういう経緯の中で、市民の方から私のほうに地方財政法第 4 条 5 項について、佐藤君説明をしてくれということで来られました。私はとっさのことであつたんで、なかなかそのことについて答えることができなかったという経緯があります。そういうことの中で、地方財政法第 4 条の 5 項について、百条委員会のほうへ出席をされておられる、それと百条委員会に賛成をされた保田副委員長はそのことについてどのような認識をされておられるかということについて、お伺いさせていただきたいと思うんです。

○議長（金谷文則君） ちょっ、ちょっと、今地方財政法のどんなことがちょっと僕らわからないので、ちょっとその資料か何かないん。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩いたします。

午後 1 時 11 分 休憩

午後 1 時 11 分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

これは、最終的に産業建設委員会の関連でお伺いしたいということでよろしいですね、佐藤委員。

保田副委員長できますか。

○副委員長（保田 守君） いや、私勉強不足で。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩します。

午後 1 時 11 分 休憩

午後 1 時 11 分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

○委員（佐藤武文君） 私もそのことについてよくわからなかったもので、調査したり、お聞きしたり、調べた結果、地方財政法の第 4 条の 5 項というのは、要するに寄附金をあんた何ぼしとくださいという、割り当てたり、それから寄附金を強要してはならないということを書いとるんですね。そういうことをしてはならないということが地方財政法上の 4 条の 5 項に書いとるということなんです。要するに、寄附金を何ぼせえとか、あるいはしてくれにゃおえんという強要をするのはだめですよということを書いとるんです。そういうことを理解しとんかというお話でした。

それからもう一点、これはよざん事ですけど、そのときに言われたことなんですけど、職員の倫理規程の関係についても、その方が私に言われたことは、佐藤君よう思い出してみいと言われることを言われたんです。そのことについて私は何のことかさっぱりわからなかったんですけど、要するに職員の倫理規程というのは旧山陽町役場の時分に、ある課においてはカレンダーあるいはビール券等々が盆と年末には届いております。ところが、ある課によってはそういうことが全然届かない課もあったわけなんです。例えば、税務課とか住民課、そういうところの課については何にも届かないというようなことで、公平性に欠けるということの中で、職員を対象にした倫理規程というものを山陽町役場の当時につくりました。それが合併をして、赤坂、熊山、吉井についてはそういう倫理規程がなかったということがありまして、合併と同時にその倫理規程が赤磐市の倫理規程として採用されるようになったといういきさつがあります。そういうことを聞きまして、ああそうだ、そのときにそういうことがあったなあということが、私自身も思い出しました。

それで、これからが本論で皆さん方と共有をしたいということについては、我々担当常任委員会の中に花火があります。花火については、協賛金を集めてやらにゃおえんという同僚議員の厳しい意見も委員会の中でも出ております。そういうことの中で、花火についての協賛金がいいのか悪いのかという問題も、私は出てくるんじゃないかなと思いますし、それがもし今百条委員会のほうで議論になっておりますようなことが問題になれば、この花火についても協賛金を集めることができないんじゃないかなと、そういう懸念もございます。そういうことを共同理解をして、私はもし該当するのであれば、今言うたように寄附金を割り当てたり、強制的に徴収するようなことはしてないと思うんです。

それから、協賛金を納めていただくということについては、何らかのそういうふうな税法上の措置があるんじゃないかなというふうに、私自身は思っておりましたので、その点は執行部に聞かないとわかりませんが、そういうことも含めて、よく我々の委員会の中でも認識を

しとったほうがいいのではないかなというふうに思いまして、きょうこのことについて提案をさせていただきました。

○議長（金谷文則君） 委員長、今のせっかくじゃけえ今、地方財政法を1部と今の倫理規程というのやつは出んのかな、あるん。

○委員長（治徳義明君） 出ます。

○議会事務局長（富山義昭君） 出ます。

○議長（金谷文則君） もう合わせて一緒に。今、佐藤さんが言ようこと

○委員（佐藤武文君） 倫理規程はぼっこう関係ねえけど。

○議長（金谷文則君） 関係ねえん。もしあるんならちょっと……。

○委員長（治徳義明君） わかりました。資料を用意してもらいます。

今の佐藤委員の花火大会の協賛金について、執行部のほう、答弁をお願いします。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。

○委員長（治徳義明君） はい、奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 赤磐市の花火大会の協賛金に関しましては、平成24年から取り組みをいたしております。目的とすると、イベントの経費を下げたいこうということ、それから企業も一緒になって花火大会を盛り上げていただくという趣旨の中で、企業の方に御依頼をして、趣旨に賛同をいただいた皆さんに協賛金という形で御協力をいただいております。

内容につきましては、事前のチラシのほうへ広告料として掲載をさせていただいて費用に充てさせていただいております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） ということは、花火大会の協賛金については何の問題もないという御答弁と理解してよろしいですね。法的にも何も問題ないという見解でよろしいですね。

そういうことですね。端的に言えば。

○産業振興部長（奥田吉男君） そのように認識してます。

○委員長（治徳義明君） それで、佐藤委員からの御質問は委員会として共有しましょうという話なんで、委員の皆様、もし異議とか質疑がありましたら。

はい、澤委員。

○委員（澤 健君） ごめんなさい、質疑じゃなくて、今言われた、ちょっとよく聞こえなかったんだけど、協賛金は広告料としてとってるということですか。

○委員長（治徳義明君） はい、奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 今、先ほど、税法上の取り扱いということもございまして、会社、法人組織においては広告料としての経費処理をされておるという内容です。

赤磐市にいただいた内容につきましては、チラシのほうで企業協賛いただいたものは、こういう企業の方が協賛いただいておりますよという周知をしておることが1つと、実際に花火大会

の経費のほうにそれは充てさせていただいております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） だから、寄附金じゃないんよな。ちょっと、わかんないんだけど、映画のほうの協賛金というのは、僕はちょっとよくわかんないんだけど、今の話でいくと広告料だからごく普通に企業が経費として立てて、そしてその広告をする、それに対する対価として支払うということで、言葉としては協賛金とは言ってるかもしれないけれど、寄附金ということではないので、だから多分、僕は映画のほうの協賛金はどんなのかわかんないけど。

○委員長（治徳義明君） 一緒です、と思いますよ。

○委員（澤 健君） 広告料。

○委員長（治徳義明君） 税法上の話ですから、協賛金というのは税法上、広告料と等々という意味でしょう。

○委員（澤 健君） いやいや、寄附金ということになってきたらまた全然違うでしょう。

○議長（金谷文則君） 向こうに聞いてみて。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 申しわけありません。協賛金として依頼をして賛同をいただいた企業の方に、協賛金をいただいております。協賛金をいただいた使途につきましては、今の花火大会の経費の中で充当をさせていただいております。企業の方には、協賛金をいただく際に事前チラシの中に広告として掲載をさせていただきますということでお答えをしております。

○委員（澤 健君） わからんなあ。

○委員長（治徳義明君） ごめんなさい、澤委員。

○委員（澤 健君） だから、つまりあれでいくと、企業側の論理からいえば、経費として使って、そして新聞広告するのと同じ、経費処理上はよ、そういう整理になってて、寄附金という整理にはなっていないということですよね。だから、寄附金じゃないんよ。広告料として支払っているということよね。協賛金お願いしますということは言ってるかもしれないけど、最終的には広告料として税務上問題ないっていう整理になってるわけでしょう。そういうことだと思うんだけどな。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○議長（金谷文則君） 今の問題ないんじゃろ。

○委員（澤 健君） いや、そうそう。だから、協賛金じゃ……。

○産業振興部長（奥田吉男君） 1点、先ほどのお答えの中で、税法上の処理として企業側は、その広告としての経費処理をされますし、いただいた実行委員会のほうでは花火大会の経

費のほうに充当させていただいております。

○委員長（治徳義明君） はい。

○委員（澤 健君） だから、広告料なんで。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 指定寄附じゃいけんわけか。ほん。寄附はいけんのか。企業が出すのは寄附金じゃいけんわけか。

○委員（澤 健君） 寄附金じゃないんじやから。

○委員長（治徳義明君） 答弁を。行本委員に対する答弁を。大事なことなんで。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい、産業振興部、奥田です。

あくまでも、大会のイベントの趣旨、それに賛同をいただく形での協賛という形にさせていただいておりますので、指定寄附のような形では受けておりませんので、協賛という形にさせていただいております。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） だけど、企業としたら指定寄附でも別に税法上落ちるわけじゃねえんか。受ける側のほうのことを今話しょんだって、出す側のほうとしたらじゃな、協賛金であろうが広告費であろうが、寄附金であろう、その寄附でも例えば指定寄附で、花火なら花火だけに特定のものに使うてくださいというような、寄附行為やったら、わしゃそういう税法上のことはようわからんのんじゃけど、素人考えでものを言よんじゃけど。企業側として税で落とす場合じゃったら、寄附金でも別に何でもかまへんのじゃねえん。

○議長（金谷文則君） ちょっと合わせて、もう一遍1つの質問で。

○委員長（治徳義明君） 金谷委員。

○議長（金谷文則君） はい、済いません。

今、花火と映画とどねえ違うんかも、もし答えれるんがあつたら合わせてその中でちょっと答えてくださいね。すげえ興味があります。

○委員長（治徳義明君） 要は、その花火大会は協賛金を求めていますということですよね。それで、税法上は広告扱いになってますという話ですよ。

ちょっと待ってくださいね。

金谷委員さんのほうが、花火大会と映画の関係の。

○議長（金谷文則君） 全体の中で教えて。

○委員長（治徳義明君） どういうふうな扱いになってるんでしょうかということなんですけど、御答弁できますでしょうか。

○議長（金谷文則君） ちょっと、調整するんなら暫時休憩したら。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩します。

午後1時23分 休憩

午後 1 時 24 分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

御答弁いただく前に、今資料が、佐藤委員のほうから要求されました資料が来ましたんで、事務局のほうで読み上げていただきます。

○議会事務局長（富山義昭君） はい、委員長。議会事務局長、富山です。

○委員長（治徳義明君） はい、富山事務局長。

○議会事務局長（富山義昭君） お手元の資料について、読み上げます。

必要なところと思われるところでよろしいでしょうか。

○委員長（治徳義明君） はい。

○議会事務局長（富山義昭君） 地方財政法第 4 条の 5。これにつきましては、そこにありますように割当的寄附金等の禁止の条文でございます。

第四条の五、国は地方公共団体又はその住民に対し、地方公共団体は他の地方公共団体又は住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、寄附金（これに相当する物品等を含む。）を割り当てて強制的に徴収（これに相当する行為を含む。）するようなことをしてはならない。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） 先ほど、佐藤委員からのほうから出ました 4 条の 5 についてはこういうことでございます。

それでは、引き続き答弁を求めます。

○産業振興部長（奥田吉男君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 先ほどの寄附金との違い、協賛金との違いということでお答えをしたいと思います。

まず、寄附金という取り扱いになりますと、行政、赤磐市への寄附金の場合につきましては全額、その経費として算入が可能です。今回の赤磐市が行っております実行委員会の形によりますと、寄附金の限度額の制限範囲が定められてきますんで、企業それぞれによって、実行委員会でいただく協賛という性格のものは、広告宣伝を前提としたものであればそういった経費が全額広告宣伝費用として掲載ができると。

○委員（行本恭庸君） 上限はねえ言うことか。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。ということで、協賛金としての広告宣伝費としての処理ができるので、企業からとすると広告宣伝費という性格になっておると思うんです。

○委員（行本恭庸君） 寄附金の限度額は。

○産業振興部長（奥田吉男君） 限度額は企業ごとでちょっと変わると思うんで、ちょっとお答えできません。

もう一点。映画の協賛金と性格は同様かという御指摘があったので、ここの部分につきましては、私どものほうでは判断できませんのでお答えを控えさせていただきます。

○委員長（治徳義明君） とりあえず、今の御答弁ずっとお聞きしましたら、花火大会については、今までも、要は実行委員会になったのはここ何年かですよね。それまでは、市が直接、どういう形態は別としてやられてたというような状況がありますけども、一切問題は、協賛金を市側が花火大会に対して求めたことに対ししたことは、何の問題もないということでもありますけども、委員の皆様、それでよろしいですか。もう問題なければ。

○委員（行本恭庸君） それはいいんだけど、その関連で今。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 今花火の件が出たんで、聞きますけど、だから花火は今主催は赤磐市でやりようが、その協賛ということで実行委員会。実行委員会というのが、今頭か。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい。

○議長（金谷文則君） そうでしょ。

○委員長（治徳義明君） そうです。

○委員（行本恭庸君） 実行委員会へ、市のほうから出す金を極力削減してじゃな、へえで実行委員会のほうは市から幾らかもろうて、それから実行委員会で集めた協賛金でやれるだけの花火をすりゃええんであつて。今のやり方というのは、実行委員会つくりますというてつくったわけじゃけど、そういうふうなことをせにゃいけんからやったんで、主力は市の錢でやりようわけじゃから。だから、主力を実行委員会で持たすような、例えば経費が500万円かけようが、600万円かけようが、1千万円かけようがええよ。その中の例えば上限を市が区切つてするようなことをすりゃええんじゃないか。そうすりゃもっと出す金が少のうて済むんじゃないん。例えば、3割なら3割以内と、実行委員会で実行する予算の3割以内を限度として市のほうが出しますというようなことをすれば、1千万円の花火したって300万円で済むんじゃ。ほん。それはどんなん。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

はい、奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい、赤磐市の花火大会につきましては、実行委員会形式にして何年かたちました。経費も削減していかんやいけん、盛り上がりもということで協賛をだんだんしていただく企業もふえております。体制が、今御指摘のとおり赤磐市の一般財源が大半でございますが、今後も企業への協賛を呼びかけながら、そういった実行委員会の中で盛り上げをして、財源確保についての検討を実行委員会のほうでも考えていきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） いや、市長にお尋ねしますが、そういう私が今提案したような、例えば3割が妥当かどうかは別の問題として、わかりやすいためにも3割という数字を出したわけ

ですけど、そういう方式でやれる、例えば28年度予算でまた組まれるんなら、今の様な全体の規模を考えて予算化してえて、そこでやるようなやり方でなしに、あくまで実行委員会が全てやると。今職員が一生懸命頑張ってるが。名前だけじゃが、実行委員会というものは、ほん。そうでなしに、もう完全に市から離れて、花火については、へえでそれに対して補助金を1本だけで済ますようなことは考えられんのですか。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○委員（行本恭庸君） 考えはないんですか。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） おっしゃってることよくわかります。大きな都市では、まさに行本委員のおっしゃってるようなスタイルがとられてると思います。この赤磐市において、そういうふうに、いわゆる民あるいは企業主体の花火大会となるのは、本当に望ましいことかと思えます。しかしながら、ここ数年間、協賛をお願いに上がったその結果を見ながら言ってるわけですけども、赤磐市にそれだけのボリュームの協賛等の集めることのできることは、いま一つ届いていないという判断があります。赤磐市の企業をもっともっと振興しながら、振興策も実施しながら赤磐市の企業にもっともっと体力をつけていただいて、行く行くはそういった方向を目指していきたいというふうに思います。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私が、ちょっと要らんことを言うたかもしれませんが、そういうことで皆さん方に考えていただいたというのは意義があったんじゃないかなというふうに思うんです。

それで、協賛金が私は悪いという考え方は成り立たないんじゃないかなと。要するに、協賛金を集めることによって、岡山県の県民マラソンも協賛金を集めてやっております。それから、これから2020年に開催される東京オリンピック、これも協賛金なしでは東京オリンピックは開催できません。要するに、協賛なしではいろんな事業が成り立たないということもある中で、しっかり協賛金の集め方、あるいは協賛金を活用してのイベントのやり方等々について、執行部に今後よく検討し勉強していただいて、赤磐市版の協賛金のあり方についてお示しを今後していただきたいなということを要望して終わりたいと思います。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

はい、澤委員。

○委員（澤 健君） 済いません。非常にいい問題提起をしていただいたと思うんですけど、やっぱり実行委員会の性質っていうのが、花火大会と映画とでどう違うのかっていうの

が、多分その議論の中になってくると思うんだけど。今佐藤さん言われた話もそうなんですけど、その映画のほうは百条でゆっくり議論していただいたらいいと思うんですけど、花火大会のほうでちょっと確認しておきたいのは、会計ですよね、会計がオープンになってて、誰がどれだけ協賛金を出してるかっていうのは明確にオープンになってるんでしょうか。それをちょっと教えといていただきたいなと思った。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

協賛金ですからオープンになっとるでしょう。答弁。

矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 実行委員会のほうで協賛金につきましては、チラシでは名称だけが載ってると思いますけども、実行委員会の会計決算の中で金額等についても御報告しております。

以上です。

○委員（澤 健君） 会計、オープンになっとるん。

○商工観光課長（矢部恭英君） はい。

○委員長（治徳義明君） 皆さん。

○市長（友實武則君） 違うじゃろう。ちょっと。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩。

午後 1 時 35 分 休憩

午後 1 時 36 分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

○商工観光課長（矢部恭英君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 矢部課長。

○商工観光課長（矢部恭英君） 濟いませぬ。先ほど決算のほうでお示ししてますという御回答をいたしましたけど、決算書で全体金額、件数等については報告のほうをさせていただいておりますが、協賛金のそれぞれの企業のほうの金額につきましては、取り扱いのほうをこういう状況であるというのを公開はしておりません。濟いませぬでした。

○委員長（治徳義明君） はい。よろしいですか。

先ほど、佐藤委員のほうからお話がありました。それで、金谷議長さんのほうから資料提出を要求されました赤磐市職員倫理規程が今お手元に届きましたんで、必要などだけ事務局のほうから読んでいただけます。

○委員（佐藤武文君） 5 条だけでえんじゃろう。

○議会事務局長（富山義昭君） 失礼します。

お手元の赤磐市職員倫理規程についてを、たくさんありますので必要と思われるとこだけ読ませていただきます。

まず、第1条は目的でございます。

第1条。この訓令は、職員が市民全体の奉仕者であって、その職務は市民から負託された公務であることにかんがみ、職員の職務に関する倫理の保持に資するため必要な事項を定めることにより、職務の執行の公正さに対する市民の疑惑や不信を招くような行為の防止を図り、もって公務に対する市民の信頼を確保することを目的とするものでございます。

第2条で定義がございますが、この中で(1)職員、この職員につきましては地方公務員法に規定する一般職に属する職員をいいます。

続きまして、第4条、利害関係者とございます。この利害関係者につきましては、事務の区分に応じとなっております。

例えて申しますと、(2)補助金等を交付する事務、補助金にかかわる事業者あるいは特定個人ということでございます。

次のページに行きまして、(8)入札に関する事務、これにつきまして入札に参加するために必要な資格を有する事業者等及び当該事業者等を構成員とする事業者団体を指しております。

なお、第5条で職員に対して禁止されている行為でございます。1から10までございます。その中で(1)利害関係者から金銭、物品又は不動産の贈与（餞別、祝儀、香典又は供花（香典及び供花にあつては、社会通念上の儀礼の範囲を超えるものに限る。））を受けること。

以下でございます。

なお、一番最後のページには、様式がございます。

贈与等報告書とございます。これにつきましては、第10条で定められておりますことに基づいて、こうしたことがあった場合、贈与等の報告書を総括倫理監督者に提出するよう定められております。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

今事務局のほうに読んでいただきました。

話を最初に戻しますけども、佐藤委員さんのほうからは、今回一連の映画に関する百条委員会等のことを受けて、花火大会も同じような形式で協賛金を集めていますと、これはどんなんでしょうかという御質問に対しまして、執行部のほうは法的にも全く問題ありませんという御答弁でした。

佐藤委員さんからすれば、恐らく今後もし問題があるのであれば、産業委員会の所管ですので議論をしていかなきゃいけない部分でもあるということを危惧されたんだと思いますけども、委員の皆様、問題ないということでよろしいですか。

もし、異論がある人がいらっしゃいましたら、御発言をお願いします。

花火大会の件ですよ。花火大会の協賛金を求めることに対して異論があるというふうな。

はい、澤委員。

○委員（澤 健君） 異論があるとか、まだその、今ある程度の情報は流れたけれど、それについて本当に会計そのものを見たわけでもないし、花火大会についてこの産業委員会として問題がないとかあるとかっていうことを結論できるほどの情報までもらってないので。佐藤委員から提案があって、今後気をつけていきたいと思いますということでもいいんじゃないんですか。

○議長（金谷文則君） 共通認識を。

○委員（澤 健君） そういうことを共通に認識。問題があるとかないとかってというのは、判断できないですよ、今。

○委員長（治徳義明君） 問題あるかないかは。

いやいや、じゃあなしに、協賛金を求めることとして、よろしいですか。

議長、よろしいですか。はい、議長。

○議長（金谷文則君） 簡単に言うたら、この見解を共通認識としてきょうの会議の中で持ちましたということだと思えるんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（治徳義明君） そういうことでよろしいですか。

そうということで、でしたらよろしく願いを申し。

保田副委員長、よろしいですか。

はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） わしが問題にしとんのは、いわゆる市の金は、例えば合併前は熊山で花火大会始めた。C. C. ガールズなんかを呼んで始めた。へえで、人気を集めてどんどん寄附金も無理なところもあった、やり方によっては抵触するようないところもあったかもしれんけどやってきた。しかし、合併してからは今度は市単独の銭で花火大会を始めた。へえで、それじゃいけまあがということで、指摘したら実行委員会なるものをつくって、実行委員会が協賛金を集めるわけじゃから、市が集めるんならいろいろ問題が、これに書いとるようなことに抵触するじゃろうけど、民間がやることについて別に我々どうこういう筋のものじゃない。

しかし、花火をやることについて、最低私が譲歩できるのは、半分以上の金で市が補助金を出すんならわかるけど、市の補助金のほうが、それ以上上回るようなことでやるということはわしはもう非常に好ましゅうない。もうやめたほうがええと思う。よその公共団体でもやめるところはたくさんある。何で赤磐市だけがそんな金がない、金がないという割には、そういうところへ無駄遣いするんか。ほん。何も花火を熊山のあの場所の悪い狭いところで、汽車の便利等はあるにしても、駐車場の問題とかいろいろしたら、もう赤磐市の中じゃあそこぐらいしかするところはないがな、あれだけの規模でしようと思うたら。そりゃわからんことないけど、岡山でする花火を見に行く人にでも、少しでも補助金を出したほうが安くつくんじゃないか。後の片づけとかなんとか、要らん心配もせんでもええし、何も花火を見なんたらおさまらんものじゃなかろう。この辺の花火見ると、ほかのところへ見に行ったほうがよっぽどかえんじゃねえ、ほん。もう少し、考えて金を使うてもらわんなら。もう50%以上の予算を組んでやるん

じゃったら、わしゃもう予算を認めん。

以上。

○委員長（治徳義明君） はい、ありがとうございます。

御意見ですね、御意見でよろしいですね。

○委員（行本恭庸君） ああいいよ。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

それでは。

○委員（佐藤武文君） もうよろしいの、この問題は。

○委員長（治徳義明君） 次に移りますよ。

2点目を、佐藤委員、お願いします。

○委員（佐藤武文君） 私は、この下水道の進捗状況について、一般質問でも取り上げて説明責任を果たしていただきたいということを市長のほうにお願いをして、この担当常任委員会においても、今後の推進計画というような、はっきりしたもんじゃないですけど、図面的なものが出てきて、すぐ開始をされますと。その中で、市長のほうも説明責任を果たしていただけない。そしてまた、下水道の推進に当たっての当委員会に対してきちっとした内容の説明がされてない。このことに対して、私は非常に憤りを感じております。このようなことを、委員会を軽視したようなやり方をされるというのであれば、この委員会を挙げて、私は執行部に対して大変大きな抗議をしていただきたい、このように思うんです。そのくらいやらないと、今の執行部は動いてやってくれないんじゃないかなという認識も持っておりますので、そのことについての見解をまずお伺いしたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 下水道整備につきまして、関係の地区への説明会、現実として現在できておりません。市民の方の不安であったり、疑念であったり、そういったことを与えていることにつきましておわび申し上げなければならないと思います。今後、関係地区への説明会のほうは順次追ってやっていこうと思います。方法につきましては、今後検討して前向きにやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、全く答弁になってないんです。そういうようなことをやります、やりますというて今まで何遍言うと言われるんですか。やってないですよ、それを。それを、またきょうやりますと。恐らく市長これからまた答弁をされるとは思いますが、やるやるやるというて一遍もやってないということについての反省が一つもできてないという

ことですね。それが、まず1点。

それから、今言う、そのやる前にこの担当常任委員会にその報告をしなきゃだめなんじゃないんですか。それもなしに、そういうふうにいきさつつくられるんですか。我々担当常任委員会の中に、どういうふうな整備計画をするということが示されてないじゃないですか。ちょっと見せられただけで、その図面を回収されたじゃないですか。皆さん、覚えとられますか、そのことについて。恐らく、もう記憶の中から、私はその今薄れてなくなっているんじゃないかなと思うんですけど。そういうふうなやり方がいいんですかと、この委員会に対して、そういうふうな執行部のやり方がいいんですかということを、私は聞きたいと、声を大にして言いたいということなんです。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まずは、この常任委員会への説明ということは、非常に重要なことと考えております。また、地域への説明もあわせてやるということを今までも何度も御答弁させていただいております。しかしながら、これが実行できていないことについて本当に申しわけなく思っております。きょうも御指摘いただいたこともありますし、できていないことを実行するということで、これから常任委員会へ説明した上で、地域への説明をさせていただこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。済みませんです。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員、よろしい。

○委員（佐藤武文君） 市長がそこまで言うなら、僕は何も。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。そのほかに。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） その下水道の話が出るのであれば、私も言わざるを得ないんですけど、桜が丘東浄化センターの改修の件です。これについては、平成24年3月の時点で廃止も含めて整備計画を策定されているんです。その検討書ということなんかもしれないんですけど。私、それを見せてくれって言うんですけど、現状は見せられないということで言われておるんですけど。いずれにしても、当時廃止も含めて整備計画をつくるということで自治連合会のほうにも御回答になって、そして実際つくられて、そしてそれが今新規投資を優先するというところでほごになってる状態で、保守でやると、大きな投資はしないということでされてます。非常に危ない、この前にも配管が破裂して、職員がいるときに破裂してくれればまだいいですけど、夜とか土日に破裂したらまた大きな汚染が流れるという状況の中で、これを放置しているということには大きな問題があります。これについても、当然どういうふうに考えているのか、この産業建設委員会で、方針が変わってらっしゃるわけですから、ぜひ説明をしていただ

きたいということで、御回答いただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

暫時休憩します。

午後 1 時 49 分 休憩

午後 1 時 53 分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

答弁を求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） まず、下水道整備の計画でございますが、27年度の委員会の中で資料のほうを整備計画につきましてはお配りしております。ですから、必要であればまた再度お配りするような格好にしたいというように思います。

それから、桜が丘東浄化センターの計画についての説明でございますが、当時具体的な地域名が出るということで、協議会に切りかえて説明を委員さんのほうにさせていただいた経緯はございます。ですから、今回澤委員のほうから言われております書類については開示の分については差し控えていただきましたということでございます。

○委員長（治徳義明君） はい、澤委員。

○委員（澤 健君） 開示とかそれはいいんですけど、要するに桜が丘東浄化センターは保守でやるという考え方について、まだ産業建設委員会の中では整理されているとは思わないので。前には、そこを廃止して整備するというようなことも検討して、予算もつけてやってるわけですから、それについて説明をしていただきたいということなんです。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○委員（澤 健君） 説明。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 説明につきましては、これはまだ必要があればそのように改めてやらせていただきたいと思います。

○委員（澤 健君） よろしくお願ひします。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

○委員（澤 健君） よろしい。

○委員長（治徳義明君） そのほかにございますか。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） 下水の今の団地の話も出とるけど、これはそれなりにやっていただきやえんじゃけど。まだ残っとる山陽の半分も済んどらんような状態の中で、後の残りのとこを

どういう方法で、今のような従来の方法でやりようったら、ありや何十年かかるかわかりやへんで。金がつかんのかじゃから。もっとほかの方法で、少し、一步でも前へ行くような方法でやらんと。その方法を考えられとん。一般質問等でいろいろ出た経緯はあると思うが。それを具体化していかんやいけん部分もあるんじゃねん。そういう計画はどうなっとんですか。

4年ごとに市長がかわりょんじゃからのう、何ぼやかましゅう言うてもおえんのんかもしれんけど。そういうもんじゃねえ、やっぱり継続性……。しとる部分がはっきり見えん。委員会で言わにやどこで言うんなら。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） はい。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 現在、社会資本整備公金という格好で整備のほう、メイン整備のほうを進めておりますが、こちらにつきましては非常に内示額が厳しい状況がございます。新たな予算措置、防水処理公金等を活用しての整備をする計画で、事務のほうを進めたいというふうに考えております。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

○委員（行本恭庸君） ある程度のものを言うてくれにやあ、せえでやります言うただけじゃ、ああそうですかだけで済む。へえで済むんなら世の中楽なもんで。それしか言えれんのんならしょうがねえが。

○委員長（治徳義明君） そのほかにありますか。

○市長（友實武則君） なんて言わんのん。

○委員（行本恭庸君） 市長言ようる。言えや、言えようるがん。

○議長（金谷文則君） じっくりよう整理してから言うてえよ。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩します。

午後1時57分 休憩

午後1時57分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 先ほどの御質問につきましては、資料のほうを手持ちに持っておりませんので、整理した上で、次回の委員会のほうへ提示させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○委員長（治徳義明君） そのほかに、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようでしたら、私のほうから1点御提案させていただきます。

済いません。ちょっと聞いてください。ごめんなさい。

この間の農林業センサス、岡山県の農業従事者が70歳を超えて5年前から比べたら2割減って5万人を切ったというような速報値も出てました。また、T P Pの問題なんかもありますけれども、非常に農業を取り巻く環境というのは非常に厳しい状況があります。そういう中で、赤磐市は農業が基幹産業であり、地方創生戦略も強い農業を目指していくプログラムというものを策定なんかしておりますけれども、今後、農業政策が産業建設委員会の中でいろいろと議論をされてくるんだろうと思います。そういう中で、私どもも産業委員会のメンバーも、例えば6次産業化であるとか、次世代農業であるとか、そういった新しい取り組みに対しても勉強をしていかなければいけないという意味合いも含めまして、1度視察をさせていただきたいと、こういうふうに思いますけども、皆さんよろしい。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、執行部のほうから説明をお願いいたします。

資料を提出があります。

それでは、説明をお願いいたします。

○産業振興部長（奥田吉男君） はい、産業振興部、奥田。

○委員長（治徳義明君） 奥田部長。

○産業振興部長（奥田吉男君） 今お手元のほうに資料を配らせていただきました。

赤磐市においても、総合戦略を定めまして強い農業の確立ということで進めております。今回視察先として選ばせていただきましたのが、兵庫県の養父市でございます。この地域におきましても、人口の減少、それから高齢化、農地が荒れてくるというような状況の中から、中山間の農業の改革特区、国の戦略特区を指定を受けまして、多様な担い手、民間の事業者を含めた多様な担い手による農業振興という形の取り組みをしておられます。具体的な相手の受け入れ先、行政のほうには、市役所のほうにはお伺いしてお話を聞く予定にしておりますけど、実際に現地を見ていただく施設等については、次世代農業のような形を考えておりますけど、まだ具体的なものは決定をしておりませんので、日にちとそれから場所について御提案ということで資料のほうを作成いたしましたので、よろしくをお願いをしたいと思います。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

○委員（行本恭庸君） 委員会だけで行くん。それともほかの。

○委員長（治徳義明君） 産業委員会、委員会だけです。委員会視察。

○委員（行本恭庸君） 産建だけで。

○委員長（治徳義明君） 産建。

国家戦略特区という、養父市、先進的に取り組まれているということで、これで調整をさせていただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君）　ありがとうございます。

それでは、この方向でさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

そのほかに、委員の皆さん、何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君）　そのほかについてももうないようですので、以上をもちまして第15回産業建設常任委員会を閉会といたします。

閉会に当たりまして、副市長より御挨拶をお願いいたします。

○副市長（内田慶史君）　はい、委員長。

○委員長（治徳義明君）　内田副市長。

○副市長（内田慶史君）　それでは、本会議におきまして付託されました議案4件につきまして慎重審査の上、決定を、議案のとおり決定をしていただけてまことにありがとうございました。

審査の過程でいただきました御意見等々につきましては、尊重してまいりたいというふうに思いますし、また当委員会との十分なる連携、それから説明責任も果たしながら今後行政の運営をしてまいりたいというふうに思います。

以上でございます。本日は大変ありがとうございました。

○委員長（治徳義明君）　ありがとうございました。

皆様方には、本日は大変お疲れさまでございました。

これをもちまして本日の委員会を閉会といたします。大変にありがとうございました。

午後2時3分　閉会